

授業科目名： 英語学概論	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 山本英一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語学		
授業のテーマ及び到達目標			
英文法について、特に学習英文法との関連で、語彙論・統語論・意味論・語用論について学びつつ、英語の歴史的変遷、およびWorld Englishes に関する知識を深める。			
授業の概要			
毎回のテーマに応じて、実例を示しながら、また受講者からも用例の提供を求めつつ、言語現象について議論することを通して分析能力を高める。また、分析力養成に資するツール（辞書・コーパス）利用の実践も行う。			
授業計画			
第1回： オリエンテーション（なぜ英語教師に英語学・言語学の知見が必要なのか）			
第2回： 英語の音声の仕組み： 音声学（音韻論）との関係から			
第3回： 英語の歴史的変遷（1）： 音声（発音）・綴り字の観点から			
第4回： 英語の歴史的変遷（2）： 表現・文法の観点から			
第5回： 学習英文法（1）： 統語論を中心とした日英語の比較			
第6回： 学習英文法（2）： 語彙（意味論）を中心とした日英語の比較			
第7回： 学習英文法（3）： ディスカッション（語彙（意味論）による日英語の比較の実践）			
第8回： 学習英文法（4）： 言外の意味（語用論）を中心とした実例分析			
第9回： 学習英文法（5）： ディスカッション（言外の意味（語用論）による実例分析）			
第10回： コミュニケーションについて（1）： 情報構造の観点から			
第11回： コミュニケーションについて（2）： ポライテネスと対人関係の観点から			
第12回： 生徒の疑問に答える英語学活用法（1）： 辞書・電子コーパスを利用する			
第13回： 生徒の疑問に答える英語学活用法（2）： 英語学のコンセプトを理解・応用する			
第14回： Lingua Francaとしての英語と World Englishes			
第15回： まとめ（英語学の知識を活用して課題に答える：プレゼンテーション）			
定期試験			
テキスト 英語観察学（奥田隆一）弓プレス			
参考書・参考資料等： 話題ごとに適宜示します。			
学生に対する評価：授業での発表・貢献（40%）、レポート（30%）、定期試験（30%）			

授業科目名： 英語音声学	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本英一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標			
英語の音声に関する（音声学）知識を身に付けるとともに、英語の母音・子音・音の脱落、同化、連結の現象を理解し、それらを実際に聞き取り、発音ができることを目指す。			
授業の概要			
音声学（一部音韻論を含む）の知識について理論を学びつつ、毎回の授業で聞き取り、あるいは発音のチェックを行い、英語の運用（リスニング・スピーキング）能力向上を計る。			
授業計画			
第1回： オリエンテーション（音声学 理論と実践について）			
第2回： 理論編：調音音声学・聴覚音声学・音響音声学、IPA； 実践編：聞き取り（1）			
第3回： 理論編：母音とは（1）、母音三角形； 実践編：聞き取り（2）			
第4回： 理論編：母音とは（2）、二重母音、大母音推移； 実践編：聞き取り（3）			
第5回： 理論編：子音とは（1）； 実践編：聞き取り（4）			
第6回： 理論編：子音とは（2）； 実践編：聞き取り（5）			
第7回： 理論編：子音とは（3）、子音連鎖、日英音声比較；聞き取り（6）			
第8回： 理論編：音声学と音韻論（音素とは）；聞き取り（7）			
第9回： 理論編：ストレス（機能語と内容語）；聞き取り（8）			
第10回：理論編：ストレス（情報構造）；聞き取り（9）			
第11回：理論編：音の連結； 実践編：発音クリニック（1）			
第12回：理論編：音の同化； 実践編：発音クリニック（2）			
第13回：理論編：音の脱落； 実践編：発音クリニック（3）			
第14回：実践編：聞き取り（テスト）、発音（テスト）			
第15回：まとめ			
定期試験			
テキスト 英語音声学入門（新装版）竹林滋・齋藤弘子 （大修館書店）			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価: 授業での発表・貢献（40%）、聞き取り小テスト（30%）、定期試験（30%）			

授業科目名： 英文法	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古賀 哲男 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・英語学		
授業のテーマ及び到達目標 （到達目標） 中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身に付ける。 （テーマ） 英文法を学ぶなかで英語による表現力への理解を深め、英語が使われている国・地域の文化について理解する。			
授業の概要 主として、演習形式により、テーマについての主要な解説を行い、試験やレポート等で受講生のテーマについての理解を確認する。英文法の根幹を理解するとともに、扱われた内容から見る多様な文化、並びに英語で書かれた代表的な文章を学ぶ。			
授業計画 第1回： イントロダクション：英文法とは何か 第2回：「序章：文の成り立ち・第1章：文の種類」を読み、演習問題を行う。 第3回：「第2章：動詞と文型・第3章：動詞と時制」を読み、演習問題を行う。 第4回：「第4章：完了形・第5章：助動詞」を読み、演習問題を行う。 第5回：「第6章：態・第7章：不定詞」を読み、演習問題を行う。 第6回：「第8章：動名詞・第9章：分詞」を読み、演習問題を行う。 第7回：「第10章：比較・第11章：関係詞」を読み、演習問題を行う。 第8回：「第12章：仮定法・第13章：疑問詞と疑問文」を読み、演習問題を行う。 第9回：「第14章：否定・第15章：話法」を読み、演習問題を行う。 第10回：「第16章：名詞構文・無生物主語・第17章：強調・倒置・挿入・省略・同格」を読み、演習問題を行う。 第11回：「第18章：名詞・第19章：冠詞」を読み、演習問題を行う。 第12回：「第20章：代名詞・第21章：形容詞」を読み、演習問題を行う。 第13回：「第22章：副詞・第23章：接続詞」を読み、演習問題を行う。 第14回：「第24章：接続詞」を読み、演習問題を行う。 第15回：まとめ 定期試験			

テキスト

『総合英語Forest』石黒昭博監修（桐原書店）2013年

参考書・参考資料等

授業中に指示する。

学生に対する評価

定期試験（60％）、レポート（30％）、演習問題等（10％）により総合的に評価する。

授業科目名： 英語文学A	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福田 圭三 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 （授業のテーマ） 英語圏の文学作品の講読を通じて、文学作品における英語表現を身につけ、作品から見えてくる文化事象や、英語圏の代表的な文学作品に関する知識を深める。これらの学習項目の習得によって得た知識を、中学校及び高等学校における外国語科の授業において、有効に活用する方策について検討する。 （到達目標） 1) 文学作品において使用される様々な英語表現について理解している。 2) 文学作品において描き出される、英語圏の国や地域の文化について理解している。 3) 英語圏の代表的な文学作品について理解している。			
授業の概要 20世紀初頭、イギリス小説は多くの優れた作家を輩出するが、ことに1920年代はそれが顕著であった。この時代を代表する5人の作家の短篇小説を精読し、当時の文化的・社会的様相を読み解く。授業では、実際に文学作品を読むために、どのような準備が必要かについて、辞書や参考文献の選択から活用方法にいたるまで、随時説明する。また、文学作品を読む上で必要な技法上の概念や方法、および作家の特質についても、適宜解説する。受講生自身が独力で作品を読解し鑑賞することが最終的な目標であるので、その訓練として、毎回授業で分担箇所を決め、当該箇所について下調べの上、発表を行ってもらう。なお、教科書以外の作品についても読む予定である。			
授業計画 第1回：1920年代のイギリス小説について、作品を読む準備について 第2回：“The Road from the Colonius” by E. M. Forster (pp. 1-6.) 第3回：“The Road from the Colonius” by E. M. Forster (pp. 7-13.) 第4回：“The Road from the Colonius” by E. M. Forster (pp. 14-19.) 第5回：“Araby” by James Joyce (pp. 20-24.) 第6回：“Araby” by James Joyce (pp. 25-29.) 第7回：“The Garden-Party” by Katherine Mansfield (pp. 30-34.) 第8回：“The Garden-Party” by Katherine Mansfield (pp. 35-41.)			

第9回：“The Garden-Party” by Katherine Mansfield (pp. 42-49.)

第10回：“The Garden-Party” by Katherine Mansfield (pp. 50-54.)

第11回：“The Rocking-Horse Winner” by D. H. Lawrence (pp. 55-62.)

第12回：“The Rocking-Horse Winner” by D. H. Lawrence (pp. 63-71.)

第13回：“The Rocking-Horse Winner” by D. H. Lawrence (pp. 72-80.)

第14回：“Louise” by W. S. Maugham (pp. 81-84.)

第15回：“Louise” by W. S. Maugham (pp. 85-91.)

定期試験

テキスト

田中英史他編『現代イギリス短編集』（成美堂）

参考書・参考資料等

石塚久郎編『イギリス文学入門』（三修社）

川崎寿彦『イギリス文学史入門』（研究社）

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社）

学生に対する評価

定期試験：50%（【到達目標】の記載内容の習熟度を測る記述式試験を行う。）

授業発表：30%（発表内容を評価する。）

授業参加状況：20%（授業への貢献度を評価する。）

授業科目名： 英語文学B	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古賀 哲男
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語文学		
授業のテーマ及び到達目標 (到達目標) 英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国や地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。 (テーマ) 英語で書かれた文章を学ぶなかで英語による表現力への理解を深め、英語が使われている国・地域の文化について理解する。			
授業の概要 主として、演習形式により、テーマについての主要な解説を行い、試験やレポート等で受講生のテーマについての理解を確認する。文学作品における英語表現や、扱われた内容から見る多様な文化、並びに英語で書かれた代表的な文章を学ぶ。			
授業計画 第1回：教科書（pp.47-71）“Fiction/Understanding the Text/Plot: James Baldwin, <i>Sonny's Blues</i> ”を読み、演習問題を行う。 第2回：引き続き、第1回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第3回：教科書（pp.80-87）“Fiction/Understanding the Text/Point of View: Ambrose Bierce, <i>An Occurrence at Owl Creek Bridge</i> ”を読み、演習問題を行う。 第4回：引き続き、第3回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第5回：教科書（pp.160-74）“Fiction/Understanding the Text/Setting: Amy Tan, <i>A Pair of Tickets</i> ”を読み、演習問題を行う。 第6回：引き続き、第5回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第7回：教科書（pp.200-4）“Fiction/Understanding the Text/Symbols: Ann Beattie, <i>Janus</i> ”を読み、演習問題を行う。 第8回：引き続き、第7回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第9回：教科書（pp.212-16）”Fiction/Understanding the Text/Theme: Katherine Mansfield, <i>Her First Ball</i> ”を読み、演習問題を行う。 第10回：引き続き、第9回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。			

第11回：教科書（pp.384-87）“Fiction/Exploring Contexts/Form as Context: Ernest Hemingway, <i>A Clean Well-Lighted Place</i>”を読み、演習問題を行う。 第12回：引き続き、第11回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第13回：教科書（pp.431-38）“Fiction/Exploring Contexts/Critical Contexts: William Faulkner, <i>A Rose for Emily</i>”を読み、演習問題を行う。 第14回：引き続き、第14回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第15回：授業のまとめ 定期試験は実施しない
テキスト <i>The Norton Introduction to Literature: Shorter Seventh Edition</i> (Norton1998)
参考書・参考資料等 授業中に指示する。
学生に対する評価 レポート試験（60%）、演習問題等（40%）により総合的に評価する。

授業科目名： Reading and Writing A	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 古賀 哲男 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (到達目標) 中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。 (テーマ) 英語で書かれた文章を学ぶなかで英語による表現力への理解を深め、英語が使われている国・地域の文化について理解する。			
授業の概要 主として、演習形式により、テーマについての主要な解説を行い、試験やレポート等で受講生のテーマについての理解を確認する。ニュース記事における英語表現や、扱われた内容から見る多様な文化、並びに英語で書かれた代表的な文章を学ぶ。			
授業計画 第1回：“Chapter 1: The Little Black Screen We Just Can’t Take Our Eyes Off”を読み、演習問題を行う。 第2回：引き続き、第1回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第3回：“Chapter 2: Shogi: A Measure of Artificial Intelligence”を読み、演習問題を行う。 第4回：引き続き、第3回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第5回：“Chapter 3: Why Japan’s Low Birth Rate Makes Economic Sense”を読み、演習問題を行う。 第6回：引き続き、第5回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第7回：“Chapter 4: The High Cost of Peace and Quiet”を読み、演習問題を行う。 第8回：引き続き、第7回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第9回：“Chapter 5: Young, Old Square Off in A Battle for the Ages”を読み、演習問題を行う。 第10回：引き続き、第9回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第11回：“Chapter 6: Half a Million Societal Drop-outs Drag on Abe’s Economic Dreams”を読			

み、演習問題を行う。 第12回：引き続き、第11回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第13回：“Chapter 7: The Education System Still Has Much to Learn”を読み、演習問題と行う。 第14回：引き続き、第13回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第15回：授業のまとめ 定期試験
テキスト <i>Advance Reading Word to Word</i>（松柏社）2019年
参考書・参考資料等 授業中に指示する。
学生に対する評価 定期試験（60％）、レポート（30％）、演習問題等（10％）により総合的に評価する。

授業科目名： Reading and Writing B	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 古賀 哲男 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 （到達目標） 中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。 （テーマ） 英語で書かれた文章を学ぶなかで英語による表現力への理解を深め、英語が使われている国・地域の文化について理解する。			
授業の概要 主として、演習形式により、テーマについての主要な解説を行い、試験やレポート等で受講生のテーマについての理解を確認する。ニュース記事における英語表現や、扱われた内容から見る多様な文化、並びに英語で書かれた代表的な文章を学ぶ。			
授業計画 第1回：“Chapter 8: A Dark Force Targets Youth at Their Jobs”を読み、演習問題を行う。 第2回：引き続き、第1回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第3回：“Chapter 9: The Unbearable Burden of 24/7 Work”を読み、演習問題を行う。 第4回：引き続き、第3回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第5回：“Chapter 10: Debating the Merits of Lifetime Employment”を読み、演習問題を行う。 第6回：引き続き、第5回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第7回：“Chapter 11: Disaster Awaits If Graying Japan Delays Societal Security Reforms”を読み、演習問題を行う。 第8回：引き続き、第7回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第9回：“Chapter 12: Japan Should Tackle New Year Challenges while Winds Are Favorable”を読み、演習問題を行う。 第10回：引き続き、第9回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第11回：“Chapter 13: Japan’s 1.2 Million Heirless Businesses at Risk of Closure”を読み、演			

習問題を行う。 第12回：引き続き、第11回と同様の教材を用いて、読解・演習を行う。 第13回：“Chapter 14: <i>Omotenashi</i> Comes up Short on Humility”を読み、演習問題を行う。 第14回：“Chapter 15: Will Japan Be A Country that Welcomes All?”を読み、演習問題を行う。 第15回：まとめ 定期試験
テキスト 『<i>Advance Reading Word to Word</i>』（松柏社）2019年
参考書・参考資料等 授業中に指示する。
学生に対する評価 定期試験（60％）、レポート（30％）、演習問題等（10％）により総合的に評価する。

授業科目名： Listening and Speaking A	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 北村 ひろよ 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 （授業テーマ）リスニングとスピーキング技能の習得に焦点をあて、コミュニケーション能力の向上を目指す （到達目標）受講生は正しい文法と語彙力を身につけ、自分の意見を人に伝えることができることを到達目標とする			
授業の概要 テキストに添ってリスニングとスピーキングの基礎的な練習をし、グループまたはペアワークを通してアウトプットの実践を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（自己紹介、授業ガイダンス他） 第2回：Unit 1A An Interview with Annie Griffith 第3回：Unit 1B A Conversation about Dr. Sylvia Earle 第4回：Unit 2A A Lecture about Laughter 第5回：Unit 2B A Talk about City Parks 第6回：Review Quiz / Activity 第7回：Unit 3A A newscast about Marketing 第8回：Unit 3B An Interview with a Graphic Designer 第9回：Unit 4A A Podcast about Strange Weather 第10回：Unit 4B A Conversation about Greenland 第11回：Review Quiz / Activity 第12回：Unit 5A A Radio Show about Ugly Food 第13回：Unit 5B A Lecture about Feeding the World 第14回：Review Quiz / Activity 第15回：授業のまとめ 定期試験			
テキスト 『Pathways: Listening, Speaking, and Critical Thinking 1: Student Book1A』 National Geographic Learning, 2018			
参考書・参考資料等 別途指示する			

学生に対する評価

Review Quiz 30% 課題 20 % プレゼン、グループワークでの発言等 20% 定期試験 30%

授業科目名： Listening and Speaking B	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北村　ひろよ
			担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 （授業テーマ）映画“Love Actually”を題材にしてイギリス英語を中心に、アメリカ英語他、多種多様な英語に触れ、日常生活の場面に応じた実際によく使う表現を学ぶ （到達目標）受講生はプレゼンテーションや会話の練習を通して、自分の意見を人に伝え、同時に他人の意見を聞くことができることを到達目標とする			
授業の概要 テキストに添ってリスニングとスピーキングの基礎的な練習をし、グループまたはペアワークを通してアウトプットの実践を行う。毎回の授業で映画の内容と単語の小テストを行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（自己紹介、授業ガイダンス他） 第2回：Unit 1　Love Actually Is All Around 第3回：Unit 2　Agony of Being in Love 第4回：Unit 3　Feel Uncomfortable? 第5回：Conversation Review / Presentation 第6回：Unit 4　Have You Gone Completely Insane? 第7回：Unit 5　It's for You 第8回：Unit 6　You're Beautiful 第9回：Conversation Review / Presentation 第10回：Unit 7　Merry Christmas 第11回：Unit 8　The Time to Be With the People You Love 第12回：Unit 9　All I Want for Christmas Is You 第13回：Conversation Review / Presentation 第14回：Presentation総括 第15回：Unit 10 Let's Review!! 定期試験は実施しない			
テキスト　『Love Actually—映画総合教材「ラブ・アクチュアリー」』松柏社、2014年			
参考書・参考資料等　別途指示する			
学生に対する評価　小テスト30% 課題 20% Conversation Review及びグループワーク等での発言			

等 20% Presentation 30%

授業科目名： English Communication A	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤枝 豊
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 (授業のテーマ)			
英語コミュニケーション力は、ただ発音よく流暢に英語を話す能力だけではない。あらゆるバックグラウンドを持った人々と積極的にコミュニケーションを図り、様々な戦略を用いて英語を話そうとする人が、国際的コミュニケーション能力が高いとされる。本授業は、自分の意見やアイデアを積極的に発信する態度を育成し、効果的に伝える能力を身につける。異なる文化やバックグラウンドを持つ人々とのコミュニケーション能力を向上させるために、会話的な戦略を学び、ペアワークやグループワークを取り入れて実践的訓練を行う。また話す力だけではなく、書く力も高め、バランスよくコミュニケーション能力を身につける。			
(到達目標)			
①自分の英語で積極的に話すことができる。			
②英語コミュニケーションに必要な様々な英語表現力を身につけることができる。			
③適切な態度で英語プレゼンテーション行うことができる。			
④様々な状況や場面で適切な表現を使って、自分の意見を英語で伝えることができる。			
⑤自分の考えや意図を英語文章で明確に表現することができる。			
授業の概要			
本授業は、主にスピーキング能力の育成のために様々な活動を実践する。英語の音の仕組みを理解し、発表の態度にも配慮をしたスピーチを行う。英語での自己紹介といった簡単な発表から、客観的な内容に関するプレゼンテーションを実施する。また英語の文章を書く力も養い、様々なタイプの文章を書く練習を行い、書くコミュニケーション力も高める。授業外学習では音声動画共有アプリ「Microsoft Flip」を使った音読練習やスピーチ課題を実施し、教室外でも英語練習ができるようにする。			
第1回	Introduction to Class：授業、評価に関する説明、Icebreaking: Getting to know each other		
第2回	Unit 1: Posture and Eye Contact：発表の姿勢とアイコンタクトについて学習		
第3回	Unit 2: Gestures：発表時のジェスチャーやボディランゲージについての学習		
第4回	Unit 3: Voice Inflection：発表時の声の調や強弱などの学習と訓練		
第5回	Unit 4: Effective Visuals：発表時のPowerPointの使用方法についての学習		
第6回	Unit 5: Explaining Visuals：資料についての説明の仕方を学習		

第7回 Unit 6: The Introduction : 発表の序論についての学習
第8回 Unit 7: The Body : 発表の本論についての学習
第9回 Unit 8: The Conclusion : 発表の結論についての学習
第10回 Presentation Project 1 : プレゼンテーション準備 (説明等)
第11回 Presentation Project 2 : プレゼンテーション準備 (スライド作成)
第12回 Presentation Project 3 : プレゼンテーション準備 (リハーサル)
第13回 Presentation 1 : プレゼンテーション 1 (グループ1)
第14回 Presentation 2 : プレゼンテーション 2 (グループ2)
第15回 Review of the Class : 英語プレゼンテーションのレポート作成に関する諸注意と授業の総復習
定期試験は実施しない
テキスト Charles LeBeau 『Speaking of Speech, premium edition』 Cengage Learning, 2020年
参考書・参考資料等 別途指示する
学生に対する評価 Homework 20%, Speaking Activity 30%, Presentation 30%, Writing Assignment 20%

授業科目名： English Communication B	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北村　ひろよ
			担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 英語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 （授業テーマ）Reading, Writing, Listening Speakingの4技能の基本的な習得に焦点をあて、コミュニケーション能力の向上を目指す （到達目標）わかりやすい英語で自信を持って自分の意見を伝えられることを到達目標とする。			
授業の概要 テキストに添って4技能の基礎的な練習をし、グループワークまたはペアワークを通してアウトプットの実践を行う。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（自己紹介、授業ガイダンス他） 第2回：Unit 1　The Joys of Anticipation 第3回：Unit 2　How Long Does It Take to Make a Friend? 第4回：Unit 3　How to Form Good Habits 第5回：Unit 4　How to Become More Productive 第6回：Unit 5　Introvert and Extrovert 第7回：中間試験 第8回：Unit 6　Social Media and Loneliness 第9回：Unit 7　Five Healthy Habits 第10回：Unit 8　Are Humans Outdated Machines? Part I 第11回：Unit 9　Are Humans Outdated Machines? Part II: Controlling Stress 第12回：Unit 10　The Happiness Set Point 第13回：Unit 11　The Hedonic Treadmill, Part I 第14回：Unit 12　The Hedonic Treadmill, Part II: Can We Control It? 第15回：授業のまとめ 定期試験			
テキスト　『Life Topics Changing Views』南雲堂、2023年			
参考書・参考資料等　別途指示する			
学生に対する評価　課題　20%　グループワークでの発言等20%　中間試験・定期試験　60%			

授業科目名： 多文化コミュニケーション	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小川 未空
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 （授業のテーマ） 「文化」およびそれに密接に関係する「言語」「歴史」「社会」などの重要性を理解し、異なる文化的背景を持つ人びととコミュニケーションをとり、共生する方法について、ライフストーリーの読解やインタビューも活用して考察する （到達目標） 1 世界の文化や多文化コミュニケーションに関わる基礎的知識を理解し説明することができる 2 多文化コミュニケーションをめぐる諸問題について学び、解決の方策を考えることができる 3 自分とは異なる文化を有する人びとの背景に目を向け理解を深めるとともに、自文化について相対的に捉えなおすことができる			
授業の概要 グローバル化が進む昨今、人や情報が頻繁に往来するようになり、文化的背景の異なる諸個人が出会い、共生を目指していくことが不可欠となっている。異なる文化を有する諸個人が、その異なりゆえにうまくコミュニケーションがとれないという経験をすることがある。それは単なる手段（言語など）のために生じる困難だけでなく、その背景にある考え方や価値観にも影響を受けていると考えられる。本授業では、「文化」およびそれに密接に関係する「言語」「歴史」「社会」などの重要性を理解し、異なる文化的背景を持つ人びととコミュニケーションをとり、共生する方法について、ライフストーリーの読解やインタビューも活用して考察する。内容を具体的に理解していくために、講師の海外でのフィールドワークの実体験・事例も紹介する。授業を通じて、自己・自文化を見つめ直し、他者・他文化を深く理解する視点を身に付ける。			
授業計画 第1回：イントロダクションー多文化コミュニケーションについて学ぶ目的ー 第2回：身の回りの異文化について発見する／考える 第3回：文化とコミュニケーション 第4回：留学生のライフストーリーに触れる①文系：テキストに示される留学生のライフストーリーを読み解く 第5回：留学生のライフストーリーに触れる②理系：テキストに示される留学生のライフストーリー			

を読み解き、考えたことを共有する

第6回：インタビューをしてみよう①事前学習：インタビューという手法について勉強し、どのような項目に焦点を絞るかを検討する。

第7回：インタビューをしてみよう②準備段階：インタビュー項目について考え、アポイントメントを取る

第8回：インタビューをしてみよう③実践：日本に暮らす外国人へのインタビューを実施する

第9回：インタビューをしてみよう④テキスト化：インタビューのデータをテキストにまとめる

第10回：インタビューをしてみよう⑤まとめ：インタビュー結果をどのようにまとめるかを学ぶ

第11回：移民・難民をめぐる問題から考える多文化コミュニケーション

第12回：国際協力における多文化コミュニケーション

第13回：日本在住の外国人との多文化コミュニケーション

第14回：多文化コミュニケーションと共生社会

第15回：授業のまとめと振り返りー共生社会の実現に向けてー

定期試験は実施しない

テキスト

山田肖子編著（2019）『世界はきっと変えられるーアフリカ人留学生が語るライフストーリー』明石書店

参考書・参考資料等

倉八順子（2016）『対話で育む多文化共生入門ーちがいを楽しみ、ともに生きる社会をめざしてー』明石書店

バーバラ・チェイス＝リボウ著、井野瀬久美恵監訳、安保永子・余田愛子訳『ホッテントット・ヴィーナスーある物語ー』法政大学出版局

学生に対する評価

- ・授業への参加および議論への貢献：40% 授業終了後にリフレクションペーパーを作成し、授業の感想や疑問点などを記入する。それらを踏まえて、授業内で論拠を示しながら意見を述べることができる。
- ・期末レポート：60% 授業の内容および個々の関心を通して第二部のインタビューデータの分析を深め、レポートとしてまとめる。

※授業のはじめに前回のリフレクションペーパーについてフィードバックを行う。

授業科目名： 地域研究A	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古賀 哲男 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 （到達目標） 社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を通じて英語による表現力への理解を深める。 （テーマ） 英語で書かれた文章を学ぶなかで英語圏の文化への理解を深め、英語が使われている国・地域の社会・歴史について理解する。			
授業の概要 主として、講義形式により、テーマについての主要な解説を行い、レポート試験や口頭発表等で受講生のテーマについての理解を確認する。文学作品における英語表現や、扱われた内容から見る多様な文化、並びに英語で書かれた代表的な文章を学ぶ。			
授業計画 第1回：イントロダクション：アメリカ社会・文化、その歴史とは何か 第2回：植民地時代の社会・文化（17世紀から18世紀） 第3回：国民文学創成期の社会・文化1（Emerson、Thoreauを中心に） 第4回：国民文学創成期の社会・文化2（Hawthorne、Poeを中心に） 第5回：国民文学創成期の社会・文化3（Melvilleを中心に） 第6回：南北戦争期の社会・文化（Twainを中心に） 第7回：世紀末から第一次世界大戦期の社会・文化（Dreiser、Jamesを中心に） 第8回：1920年代の社会・文化1（Hemingway、Fitzgeraldを中心に） 第9回：1920年代の社会・文化2（ハーレム・ルネッサンス作家を中心に） 第10回：1930年代の社会・文化（Steinbeckを中心に） 第11回：1940年代の社会・文化（Faulknerを中心に） 第12回：1950年代の社会・文化（Bellow、Salingerを中心に） 第13回：1960年代から1990年代の社会・文化（Pynchon、DeLillo、Morrisonを中心に） 第14回：2000年以降の社会・文化、まとめ 第15回：授業のまとめ			

定期試験は実施しない
テキスト 押谷善一郎監修『アメリカ文学新考』（大阪教育図書、2004年）
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。
学生に対する評価 レポート試験（80％） 平常授業での発表内容（20％）

授業科目名： Global Issues	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 内藤 雅一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 (授業テーマ) グローバル問題の基礎的な要因と経済的事象の関連性 (到達目標) 1. グローバル問題の基礎的な要因について説明できる。 2. 少なくとも 1 つの世界的な問題に関するケーススタディを提示できる。 3. その問題の可能な解決策について意見を述べることができる。			
授業の概要 グローバル問題は、問題そのものが外部不経済を伴い国境を超えて波及する。そのため、本授業ではグローバル問題の基礎的な要因と経済的事象の関連性を、事例を交え解説しその解決策について検討する。授業の進め方は、講義による概説と、学生グループによるプレゼンテーションやディベートを含むアクティブラーニングを実施する。なお、本授業は英語で実施する。			
授業計画 第1回：Introduction and What is development? （イントロダクション・開発とは） 第2回：Wealth and Poverty and Population（裕福と貧困と人口） 第3回：Food and Global Fishing Controversies（食料と世界的な漁業論争） 第4回：Energy（エネルギー） 第5回：Climate Change and Extreme Weather（気候変動と異常気象） 第6回：The Environment: Natural Resources and Pollution（環境：天然資源と汚染） 第7回：Technology and Alternative Futures（技術と代替未来） 第8回：ケーススタディーケーススタディ発表方法・ディベートのやり方とディベートとは何かー 第9回：ケーススタディの発表① ー選択したケーススタディについて発表を行うー 第10回：ケーススタディの発表② ー選択したケーススタディについて発表を行うー 第11回：ケーススタディの発表③ ー選択したケーススタディについて発表を行うー 第12回：ケーススタディの発表④ ー選択したケーススタディについて発表を行うー 第13回：ケーススタディの発表⑤ ー選択したケーススタディについて発表を行うー 第14回：ケーススタディの発表⑥ ー選択したケーススタディについて発表を行うー 第15回：Summarize the global issues（グローバル問題のこれまでの講義の復習と要約）			

定期試験は実施しない

テキスト

Global Issues: An Introduction 6th版 Wiley-Blackwell、KRISTEN A. HITE, JOHN L. SEITZ著

How to Present: The Ultimate Guide to Presenting Live and Online, Wiley; 第2版, Michelle Bowden著

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する

学生に対する評価

- ・課題：30% 講義内で課すミニレポート
- ・Webテスト：20% 講義以外の時間にネットで課す問題集
- ・レポート：50% 学期プロジェクト(ケーススタディの発表)

授業科目名： 多文化共生論		教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 神崎隼人
				担当形態： 単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 ・ 異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標				
この科目では多文化共生論の一つとして、文化人類学の思考法を軸に、みなさんの今ある「あたりまえ」をとらえなおし、来たるべき共生の社会を模索・実現するための知識と態度を身につけます。				
授業の概要				
人類の諸社会には、様々な異なる生活スタイル、考え方、世界観、文化が広がっています。では、私たちはそうした中で「共生」を、どのように考えれば良いのでしょうか。文化人類学の思考には、多文化共生の模索に向けて有用な知見があります。そのような様々なトピックについて、身近な例から世界各地の馴染みのない生活や文化の例まで広く見て、それらに具体的にアプローチします。また、様々な例を理解し、考察するための理論や概念を学習します。				
授業計画				
第1回：はじめに——世界を捉える思考の道具をつくる				
第2回：自然・環境——動物や植物、いろいろな生命と共に生きるには？				
第3回：技術——様々な技術や機械に溢れた私たちの暮らしについて				
第4回：科学と呪術——私たちはどのように世界を秩序づけているのか？				
第5回：いろいろな“現実”——現実とは“ただ一つ”ではないということ				
第6回：芸術——モノはどうやって芸術品に変化するのか？				
第7回：経済——人と人との間の交換や贈り物の役割とは？				
第8回：国家——私たちが“日本人”と感ずる理由				
第9回：戦争と平和——衝突と調停を生きる人々の傍らから見る				
第10回：期末レポートの書き方				
第11回：自己——「私らしさ」はどのように形成される？				
第12回：家族と親族——いろいろな地域や時代の“家族”像について				
第13回：個人——ばらばらの個人を越えて共生する論理とは？				
第14回：新たな社会——近代的な「市民」の外側へ、人間以外にも開かれた社会へ				
第15回：まとめ				
定期試験は実施しない				
テキスト				

松村圭一郎・中川理・石井美保（編）『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。

参考書・参考資料等

それぞれのトピックに従って授業中に適宜紹介・指示します。

学生に対する評価

期末レポート70%＋参加度（毎回のコメントシート）30%

授業科目名： 地域研究B	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 滝澤克彦
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 （授業テーマ） 文化の接触や交流、それを通した社会の変容などに注目することによって、アジアという地域を包括的に理解する （到達目標） 1．アジア地域における文化や社会の概要を理解し、説明できるようになる。 2．いまアジアで生じている様々な問題について、その歴史的・文化的背景を踏まえながら人文社会科学の諸概念や枠組みを用いて考え、説明できるようになる。			
授業の概要 本講義では、文化の接触や交流、それを通した社会の変容などに注目することによって、アジアという地域を包括的に理解することを試みる。さらに、それを踏まえて現代アジア世界の平和的な共存にとって、どのような課題や可能性があるかを考える。具体的には、前半の講義で「翻訳」という営みに注目して文化的影響関係を理解することで、アジアにおける歴史的な文化交流がいかにアジア地域の緊密な関係を形成しているか理解するとともに、近代化に伴うアジアと西洋文化との接触の様態についても学ぶ。さらに、後半の講義では、社会主義国家の建設と宗教的ネットワークの展開という二つの歴史的な事象の考察を通して、現代のアジア地域が抱える諸問題についての理解を深める。			
授業計画 第1回：導入―地域としての「アジア」 第2回：アジア文化交流史①―仏教伝播と東西交流 第3回：アジア文化交流史②―帝国主義と植民地主義 第4回：アジア文化交流史③―国家の形成と近代化 第5回：アジア文化交流史④―グローバル化とアジア 第6回：文化接触と翻訳①―アジアと日本の翻訳文化 第7回：文化接触と翻訳②―聖書翻訳とアジア 第8回：文化接触と翻訳③―近代化と翻訳 第9回：アジアにおける文化の接触と交流―事例研究 第10回：アジアと社会主義①―国家建設と近代化			

第11回：アジアと社会主義②—ポスト社会主義社会 第12回：グローバル化するアジアと宗教①—宗教ネットワーク（仏教） 第13回：グローバル化するアジアと宗教②—宗教ネットワーク（キリスト教） 第14回：グローバル化するアジアと宗教③—人の移動と宗教 第15回：まとめ—課題の設定 定期試験は実施しない
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 芝山豊他編2021『聖書とモンゴル：翻訳文化論の新たな地平へ』教文館 櫻井義秀編2020『アジアの公共宗教—ポスト社会主義国家の政教関係』北海道大学出版会 伊豫谷登士翁1998『グローバリゼーションのなかのアジア』未来社
学生に対する評価 授業課題：50% 毎回の講義で課すミニレポートの提出 最終レポート：50% 授業全体の内容を踏まえたレポート フィードバックの方法：授業の議論や質問等に対して、次回の講義中あるいは学内システム（KVC）を用いて応答する。

授業科目名： 地域研究C	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小川 未空 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 （授業テーマ） アフリカ地域における生態資源や鉱物資源の豊富さ、あるいは、言語や民族の多様性、また、これらの背景にある政治や歴史について学ぶ （到達目標） 1. 地域研究の面白さと意義を理解し、説明することができる 2. アフリカ地域の歴史や文化、その多様性を踏まえて、アフリカの魅力と課題について議論できる 3. アフリカと他地域との関係について、特に日本に暮らす我々との関係を説明できる			
授業の概要 アフリカは、日本とは地理的に遠く離れているように思えるが、我々の日常生活のさまざまなところにアフリカ地域との接続点がある。各種メディアで報道される貧困というイメージで認識されることも少なくないが、本授業では、アフリカ地域における生態資源や鉱物資源の豊富さ、あるいは、言語や民族の多様性、また、これらの背景にある政治や歴史について学ぶ。さらに、本授業を通して、自分が暮らす地域と異なる地域について学ぶことの面白さについて、地域研究や文化人類学の知見を活用しながら習得する。			
授業計画 第1回：イントロダクションーアフリカ地域研究入門ー 第2回：アフリカに対するイメージ 第3回：欧米列強との関係 第4回：植民地支配の影響 第5回：紛争における「人道的介入」と「人道的支援」 第6回：教育と社会階層 第7回：言語の多様性 第8回：政治と民族 第9回：グローバル市場における経済 第10回：ミクロな経済 第11回：アフリカの時事①政治：受講生それぞれの関心に応じてアフリカ地域に関する新聞報道を1			

点ずつグループないし個人で選択し、内容を要約するとともにその背景について考察を加えて発表し、全員で議論する

第12回：アフリカの時事②ジェンダー：第11回と同様

第13回：アフリカの時事③紛争：第11回と同様

第14回：アフリカの時事④教育・文化：第11回と同様

第15回：まとめーアフリカについて学ぶことの意味ー

定期試験は実施しない

テキスト

宮本正興・松田素二編『新書アフリカ史』

白戸圭一『アフリカを見る アフリカから見る』筑摩書房

参考書・参考資料等

ウォルター・ロドネー著、北沢正雄訳『世界資本主義とアフリカーヨーロッパはいかにアフリカを低開発化いたかー』

松村圭一郎『うしろめたさの人類学』ミシマ社

学生に対する評価

- ・授業への参加および議論への貢献：40% 毎回リフレクションペーパーを作成して提出する。授業の感想や疑問点などを記入する。それらを踏まえて、授業内で論拠を示しながら意見を述べることができる。
- ・新聞報道の要約と報告：20% アフリカに関する新聞報道を要約し授業内で報告する過程で、アフリカに関する情報の報じられ方や報道内容から浮かび上がる魅力および課題について理解を深める。
- ・期末レポート：40% 授業の内容および個々の関心に応じてテーマを定め、アフリカを題材にしたレポートをまとめる。

※授業のはじめに前回のリフレクションペーパーについてフィードバックを行う。

授業科目名： 国際社会と教育	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小川 未空 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 異文化理解		
授業のテーマ及び到達目標 （授業のテーマ） 日本だけでなくアフリカやアジアを含む世界の教育制度と格差の現状について学びながら、どのような要因が教育格差を生成しているのか、そしてそれを解決する手立てはあるのか、教育社会学や比較教育学などの知見を活用して検討する。 （到達目標） 1. 教育と格差に関わる社会学の理論と研究に関する基礎的知識を理解し説明することができる 2. 世界の教育について、信頼できる情報を精査し、資料や文献を批判的に考察し論じることができる 3. 自身の経験のみに基づいて議論を展開するのではなく、客観的な情報や既存の研究を参照したうえで議論できる			
授業の概要 近年、「親ガチャ」という言葉に代表されるように、生まれや家庭環境によって人生が左右されうことは多くの人が認識するところとなった。日本国内でもそうであるように、世界には様々な境遇のもとで生まれ育つ人びとがおり、生まれによる教育格差の存在が周知の事実となっている。教育社会学の分野では、家庭の経済力や両親の学歴などの資本が、子どもの学力やその後の人生にも強い影響を与える傾向があるという指摘は古くからなされてきた。しかし、そもそも公教育制度は身分や生まれによって将来が定まってしまう社会を打破しようと設計されたものである。それなのに、なぜ学校制度を経由してもなお、生まれの影響が強く残るのだろうか。その実態はどのようなものだろうか。また、これを解決する手立てはあるのだろうか。本授業では、日本だけでなくアフリカやアジアを含む世界の教育制度と格差の現状について学びながら、どのような要因が教育格差を生成しているのか、そしてそれを解決する手立てはあるのか、教育社会学や比較教育学などの知見を活用して検討する。			
授業計画 第1回：イントロダクションー国際社会と教育について学ぶ目的ー 第2回：3分間エッセイの報告①受験勉強ー受講生が自らの教育経験を振り返るエッセイを作成し発表 第3回：3分間エッセイの報告②学校行事ー受講生が自らの教育経験を振り返るエッセイを作成し発表			

第4回：貿易ゲーム—「貿易」を中心に、世界経済の動きを擬似体験することによって、そこに存在するさまざまな問題について学び、その解決の道について考えることを目的としたシミュレーションゲームを行なう—

第5回：貿易ゲームの振り返り

第6回：世界の教育格差①日本

第7回：世界の教育格差②ヨーロッパ地域

第8回：世界の教育格差③アメリカ

第9回：世界の教育格差④イスラーム地域

第10回：世界の教育格差⑤アフリカ

第11回：課題文献の輪読①社会階層：受講生それぞれの関心に応じて学术论文を1点ずつグループないし個人で選択し、論文の内容を要約するとともに批判的考察を加えて発表し、全員で議論する。

第12回：課題文献の輪読②ジェンダー：第11回と同様

第13回：課題文献の輪読③多文化：第11回と同様

第14回：課題文献の輪読④地域：第11回と同様

第15回：授業のまとめと振り返り

定期試験試験は実施しない

テキスト

耳塚寛明『教育格差の社会学』有斐閣アルマ

宮寺晃夫『教育の正義論—平等・公共性・統合』勁草書房

参考書・参考資料等

日本教育社会学会『教育社会学研究』

日本比較教育学会『比較教育学研究』

学生に対する評価

- ・授業への参加および議論への貢献：40% 毎回リフレクションペーパーを作成して提出する。授業の感想や疑問点などを記入する。それらを踏まえて、授業内で論拠を示しながら意見を述べることができる。
- ・3分間エッセイの報告：20% 自身の教育経験を振り返る3分間エッセイを作成・報告し、他者の教育経験と自身の教育経験を比較し、相対化するとともに特徴について理解する。
- ・課題文献の要約と報告：40% 課題文献を事前に読み、担当回においてはレジュメを作成し報告する。

※授業のはじめに前回のリフレクションペーパーについてフィードバックを行う。

授業科目名： 英語科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 山本英一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 本授業のテーマは、英語教育の「理論的背景」である。 学習指導要領および教科書についての理解を深めながら、英語教員として知っておくべき基礎知識、具体的には、言語理論、第二言語習得論、および外国語教授法の変遷についての<u>知識の獲得</u>を目指す。また、同時にコミュニケーションについて考え、英語教員として相応しい<u>運用能力</u>、<u>言語分析能力</u>を身につける。			
授業の概要 学習指導要領の目標や指導内容について理解を深めたうえで、みずからのコミュニケーション能力の向上、分析力の錬磨を行いつつ、英語によるコミュニケーション指導に関する理論とその背景、およびその応用方法について学ぶ。			
授業計画 第1回： オリエンテーション（英語教育の現状と課題、英語（言語）学習が目指すもの） 第2回： 求められる英語教師像（言語学、応用言語学、教授法、教育手法の観点から） 第3回： 学習指導要領（中学校、中学校の英語授業） 第4回： 学習指導要領（高等学校、高等学校の英語授業） 第5回： 小学校学習指導要領と外国語活動、外国語の授業 第6回： 授業プランニングと学習指導案（1）：CEFRの考え方とCAN-DO リストの観点から 第7回： 授業プランニングと学習指導案（2）：言語活動と観点別評価のポイントの観点から 第8回： 模擬授業に活かす言語活動とは（1）：授業・評価の観点から（評価を意識した実践方法） 第9回： 模擬授業に活かす言語活動とは（2）：言語学の観点から（英語学と実践との接点） 第10回： 音声指導・文字指導 第11回： 語彙・表現・辞書の指導（1）：英語教員に求められるコーパス利用 第12回： 語彙・表現・辞書の指導（2）：言語使用とジャンルについて 第13回： 言語理論と第二言語習得について：知識と活用 第14回： 外国語教授法：過去の変遷と問題点・課題 第15回： 英語教育の方向性 定期試験			
テキスト 新学習指導要領にもとづく英語科教育法（第3版）（望月昭彦編）大修館書店			

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）、その他話題ごとに適宜示します。

学生に対する評価

授業での発表・貢献（40%）、レポート（30%）、定期試験（30%）

授業科目名： 英語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本英一
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 本授業のテーマは、理論を踏まえた英語教育の「実践方法」である。 中学・高校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」を意識しながら、個々の領域に留まらず、複数の領域を統合した言語活動、あるいは言語スキルにコンテンツを統合する授業の展開法を身につける。また、生徒のアウトプットを促す指導法・学習法についての理解を深めるとともに、そのために必要な教材や評価方法に関する知識の獲得を目指す。			
授業の概要 英語教育に必要な理論的知識を主に扱う英語科教育法Ⅰに対して、ここでは生徒の能力を引き出すための具体的な実践手法（授業プラン・指導技術・教材開発）について学ぶ。また、生徒の能力伸長を的確に測り、結果を指導方法にフィードバックするための評価方法についても考える。			
授業計画 第1回： オリエンテーション（学習指導要領と英語の授業） 第2回： 授業プランと展開（1）： 言語活動を中心とした授業の組み立て 第3回： 授業プランと展開（2）： コンテンツを中心とした授業の組み立て（CLIL/EMIとは） 第4回： 授業プランと展開（3）： 読むこと・書くことの指導（推論と論理について） 第5回： 授業プランと展開（4）： 聞くこと・話すことの指導（アウトプットの方法とジャンル） 第6回： 指導技術（1）： 実践を意識して授業プランを作成する（ICTの活用とプレゼンテーション） 第7回： 指導技術（2）： 実践を意識して授業プランを作成する（アクティブラーニングとその評価） 第8回： 指導技術（3）： 授業プランと模擬授業（観点別評価・教員連携・ティームティーチング） 第9回： 指導技術（4）： 授業プランと模擬授業（イマージョンと教員の言語能力開発） 第10回： 指導技術（5）： 英語ユーザーとして教員が自律・成長するには 第11回： 教材開発（1）： 言語活動を中心とした教材とその評価とは 第12回： 教材開発（2）： 異文化理解を含むコンテンツを中心とした教材とその評価とは 第13回： 自学自習および継続的学習を促すための指導法・教材開発法・ICT活用法 第14回： 試験問題作成について：筆記テスト・パフォーマンステストの観点から 第15回： まとめ（授業内容をテーマとした英語によるプレゼンテーション） 定期試験			

テキスト
アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換（溝上慎一） 東信堂
参考書・参考資料等
学習評価ハンドブック（エリザベス・F・バークレイ/クレア・ハウエル・メジャー）東京大学出版会、中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）
学生に対する評価
授業での発表・貢献（40%）、レポート（30%）、定期試験（30%）

授業科目名： 英語科教育法 III	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 溝川 泰章 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 指導計画、授業の組み立て方について理解する ・ 指導計画に基づいた授業を行うことができる ・ 模擬授業を通して実践力を深める			
授業の概要 全員がグループあるいは個人で模擬授業をし、クラスメイトから評価をもらう。模擬授業を通して発表力、授業の組み立て方を身につけ、英語教師になるための基本的な資質を養う。また、クラスメイトの模擬授業をフィードバックすることによって他人を評価する能力をつける。さらには英語教員として知っておくべき英語教育の基本問題を理解する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 授業計画や到達目標、評価方法の説明 第2回：学習指導案の作成 中学校(英語)の学習指導案を作成する 第3回：中学校(英語)を想定した模擬授業の準備 グループごとに単元を決めて学習指導案を作成、授業準備を行う 第4回：中学校(英語)を想定した模擬授業1 理論1（英語を学ぶこと、教えること） 第5回：中学校(英語)を想定した模擬授業2 理論2（英語の指導目標と内容） 第6回：中学校(英語)を想定した模擬授業3 理論3（学習者の要員） 第7回：中学校(英語)を想定した模擬授業4 理論4（良い教師の条件） 第8回：振り返り 理論の小テスト 第9回：学習指導案の作成 高等学校(英語)の学習指導案を作成する			

第10回：高等学校(英語)を想定した模擬授業の準備

グループごとに単元を決めて学習指導案を作成、授業準備を行う

第11回：高等学校(英語)を想定した模擬授業1

理論5（言語習得の理論上の諸問題）

第12回：高等学校(英語)を想定した模擬授業2

理論6（指導法の変遷1 文法訳読式からオーディオ・リンガル法まで）

第13回：高等学校(英語)を想定した模擬授業3

理論7（指導法の変遷2 コミュニカティブ・アプローチ以降の指導法）

第14回：高等学校(英語)を想定した模擬授業4

理論8（ICTを活用した授業）

第15回：振り返り

定期試験

テキスト

土屋澄男・秋山朝康・大城賢・千葉克裕・望月正道著《英語・英米文学入門シリーズ》最新英語科教育法入門(研究社)

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）

学生に対する評価

模擬授業40%、レポート30%、定期試験20%、小テスト10%

授業科目名： 英語科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 溝川 泰章 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 ・英語の指導方法を身につける ・様々な授業形態を知る ・模擬授業を通して実践力を深める			
授業の概要 英語科教員としての資質および知識を身につけることが狙いであるため、模擬授業、講義、ディスカッションなどを行う。教育実習を見据え、これまでの教職課程で学習した内容を応用できる力を身につける。模擬授業では実際の授業で使えるような指導方法を学ぶ。			
授業計画 第1回：ガイダンス 授業計画や到達目標、評価方法の説明 第2回：中学校(英語)を想定した模擬授業の準備 単元を決めて学習指導案を作成、授業準備を行う 第3回：中学校(英語)を想定した模擬授業1 理論1（発音の指導） 第4回：中学校(英語)を想定した模擬授業2 理論2（文字と綴り字の指導） 第5回：中学校(英語)を想定した模擬授業3 理論3（語彙の指導） 第6回：中学校(英語)を想定した模擬授業4 理論4（文法の指導） 第7回：オンラインを想定した模擬授業 理論5（リスニングの指導） 第8回：振り返り 理論の小テスト 第9回：高等学校(英語)を想定した模擬授業の準備 単元を決めて学習指導案を作成、授業準備を行う 第10回：高等学校(英語)を想定した模擬授業1			

理論6（スピーキングの指導） 第11回：高等学校(英語)を想定した模擬授業2 理論7（リーディングの指導） 第12回：高等学校(英語)を想定した模擬授業3 理論8（ライティングの指導） 第13回：高等学校(英語)を想定した模擬授業4 理論9（言語技能を統合した指導） 第14回：高等学校(英語)を想定した模擬授業5 理論10（ティームティーチングでの指導） 第15回：振り返り 定期試験
テキスト 土屋澄男・秋山朝康・大城賢・千葉克裕・望月正道著《英語・英米文学入門シリーズ》最新英語科教育法入門(研究社)
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）
学生に対する評価 模擬授業40%、レポート30%、定期試験20%、小テスト10%

授業科目名： 学校インターンシップ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：樋口太郎・高津芳則 ・藤澤宏樹・中西修一郎 担当形態：オムニバス・複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
学校インターンシップは、教育実習をより充実したものとするべく、学校教育の実際について事前にできうる限り学んでおくことを目的とするものである。 到達目標としては、以下の3点があげられる。 ①実際の交流を通して児童・生徒たちへの理解を深めること。 ②教育現場に身を置くことで教師という仕事の実際に触れ、理解を深めること。 ③現場で学んだことおよび他の学生との交流から、教育実習に向けて現時点での自身の教師としての力量を確認すること。			
授業の概要			
授業内容は、大学の近辺に位置する小学校、中学校、高等学校での実習と、大学での講義・事後指導により構成される。 大学近隣に位置する地域の学校において児童・生徒たちと教科・教科外の両面で関わり、学んできたことをプレゼンテーションの場を通じて交流し、アクティブラーニング的手法によって経験をより豊かなものとしていく。 受講に際しては、児童・生徒たちと教育現場で接するということへの責任感が何よりも要求される。			
授業計画			
第1回： 授業の概要や計画、成績評価基準の説明、演習の目的の解説（担当：樋口太郎）			
第2回： 外部講師による講話（担当：高津芳則）			
第3回： 小学校でのオリエンテーション（担当：樋口太郎・中西修一郎）			
第4回： 小学校での実習①——児童と積極的に関わる（担当：樋口太郎）			
第5回： 小学校での実習②——教師という仕事についての理解も深めていく（担当：樋口太郎）			
第6回： 小学校での実習③——教育実習に向けての自身の課題を意識化していく（担当：樋口太郎）			
第7回： 小学校実習についての事後指導（担当：樋口太郎・高津芳則）			
第8回： 中学校でのオリエンテーション（担当：樋口太郎）			
第9回： 中学校での実習①——生徒と積極的に関わり、教師という仕事についての理解も深めていく（担当：樋口太郎）			
第10回： 中学校での実習②——教育実習に向けての自身の課題を意識化していく（担当：樋口太郎）			

第11回： 中学校実習についての事後指導（担当：樋口太郎・中西修一朗）

第12回： 高校でのオリエンテーション（担当：樋口太郎）

第13回： 高校での実習①——生徒と積極的に関わり、教師という仕事についての理解も深めていく（担当：樋口太郎）

第14回： 高校での実習②——教育実習に向けての自身の課題を意識化していく（担当：樋口太郎）

第15回： 高校実習についての事後指導（担当：樋口太郎・藤澤宏樹）

定期試験は実施しない。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

田島充士・中村直人・溝上慎一・森下覚『学校インターンシップの科学』ナカニシヤ出版、2016年。

学生に対する評価

活動状況、プレゼンテーションの内容、提出物の内容、議論への参加度などから総合的に判断する。

授業科目名： 人権教育論	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤澤宏樹
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 人権教育の目的・課題・方法について、議論し考えることにより、教員としての素養を養う。			
授業の概要 教育・福祉の現場で生じている人権侵害問題について検討を行う。			
授業計画 第1回：人権教育の課題と方法 第2回：人権教育の国際的動向 第3回：病気と差別その1ーコロナウイルス禍の問題 第4回：病気と差別その2ーハンセン病問題 第5回：病気と差別その3ーHIV・AIDS 第6回：「LGBT」と差別 第7回：障害のある人と差別・偏見 第8回：障害のある子どもへの教育支援 第9回：子どもの権利と家族ー児童虐待を中心に 第10回：差別語・不快語ーフォークソング・ロックの歌詞から考える 第11回：民族と差別 第12回：人種と差別 第13回：被差別民の歴史と生活その1ー江戸時代まで 第14回：被差別民の歴史と生活その2ー明治以降 第15回：人権教育の意義と展望そして課題 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 藤本典裕・制度研『学校から見える子どもの貧困』（大月書店、2009年）			
学生に対する評価 期末テスト50%、授業内レポート50%			

授業科目名： 教育と社会	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 樋口太郎
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 教育という事象を、哲学、社会学、歴史学などの周辺領域の知見も踏まえつつ多角的に捉えることで、（学校）教育を当たり前のものとする社会を一步引いて見つめることができるようになること。			
授業の概要 講義内容は、理論・歴史編とテーマ編の2つの柱より成る。理論・歴史編（第2 - 8回）では、教育という営みを歴史的に相対化し、教育を社会との関係において理論的に把握するための基礎を培う。テーマ編（第9 - 14回）では、教育と社会をめぐる諸問題に、これまでの授業内容をふまえながら迫っていく。最後に、全体のまとめをおこなう（第15回）。			
授業計画 第1回：講義概要や計画、成績評価基準の説明、講義目的の解説 第2回：これは「教育」ですか？ 第3回：教育の語源学①——東洋・西洋編 第4回：教育の語源学②——日本編 第5回：教育の思想史①——古代編 第6回：教育の思想史②——中世編 第7回：教育の思想史③——近代編 第8回：教育の思想史④——19・20世紀編 第9回：「学校」について考える 第10回：「いじめ」について考える 第11回：「大学」について考える 第12回：「子ども」について考える 第13回：「能力」について考える 第14回：「社会」について考える 第15回：改めて「教育」とは何かを問う（まとめ） 定期試験は実施しない。			
テキスト なし			

参考書・参考資料等
木村元『学校の戦後史』岩波新書、2015年。
中村高康『暴走する能力主義』ちくま新書、2018年。
松岡亮二『教育格差』ちくま新書、2019年。
本田由紀『教育は何を評価してきたのか』岩波新書、2020年。 など
学生に対する評価
レポート課題（40％×2回）、ワークシート課題（10％×2回）

授業科目名： 教育・学校心理学	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坪 田 祐 季
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分			
授業の到達目標及びテーマ 到達目標： ・ 学校カウンセリングについて、理論的に説明できる。 ・ 児童生徒が抱える心理的課題について、多面的な視点から理解し、心理職としてどのように対応するか説明できる。 ・ 家族支援の在り方、多職種との連携の必要性について説明できる。 ・ 学校における具体的な心理援助のアプローチについて説明できる。 テーマ： 学校カウンセリング 教育心理学 スクールカウンセラー 多職種連携			
授業の概要 学校現場における学校カウンセリングや教育心理学の基本概念、学校現場における様々な課題を理解し、「個」と「集団」に対する具体的なアプローチのあり方を学ぶ。			
授業計画 第1回：学校における子どもの現状 第2回：子どもの発達 第3回：子どもを取り巻く環境 第4回：スクールカウンセラーの役割と援助の実際 第5回：チーム学校と多職種連携 第6回：3段階の援助サービス 第7回：学校現場における発達障害への対応 第8回：学校現場における不登校対応 第9回：学校現場におけるいじめ 第10回：学校現場における非行 第11回：緊急支援と危機対応 第12回：学級づくりへの援助 第13回：学校づくりへの関与 第14回：地域連携 第15回：授業全体の振り返り 定期試験			
テキスト			

公認心理師の基礎と実践18巻 教育・学校心理学 石隈利紀編 遠見書房

参考書・参考資料等

ワークで学ぶ学校カウンセリング 竹尾和子 井藤元編 ナカニシヤ出版

体験型ワークで学ぶ教育相談 小野田正利 藤川信夫監修 大前玲子編 大阪大学出版会

その他、必要に応じて適宜紹介します。

学生に対する評価

期末試験50%、振り返りレポート40%、平常点10%で総合的に評価する。

授業のはじめに前回の課題や振り返りレポートについてフィードバックを行う。

授業科目名：現代と教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 保田 その
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 現在の教育の動向について、経緯や背景を理解したうえで、様々な方向から考え、論じることができるようになることを目的としている。			
授業の概要 制度的な側面、政策の動向、統計データ、歴史的な経緯、マスコミによる報道の状況など、多角的な観点からの考察を行う。 扱う問題は、学校教育の制度、内容、生徒指導に関するもの、家庭や地域社会との関連に関するもの、学校教育と社会との関連に関するものなど多岐にわたる。その時期に話題になったことを中心に取り上げる。			
授業計画 第1回：教育の理念と歴史：教育史を踏まえて学校にみんなが通うことが当たり前の時代を見直す。 第2回：公教育の制度と仕組み 重要な法規および文部科学省、教育委員会などの制度を学ぶ。 第3回：教育課程（学習指導要領の変遷と現在）：学校で学ぶ内容が、どのように定められているか、歴史的背景を中心に知る。現行学習指導要領で重視される「主体的・対話的で深い学び」についても考える。 第4回：学力とは何か。教育における評価と選抜：学力観の変遷、評価の基準、絶対的評価と相対的評価、入学試験における公平性とはなにか、といったことについて検討する。 第5回：学校における教科外の活動（特別活動と課外活動）：学校生活のなかで重要な位置を占める特別活動や、教育課程外の活動でありながら、多くの学生にとっては学校生活の中心である「部活動」について歴史、制度、様々な見方などを検討する。 第6回：生徒指導について（体罰と校則を中心に）校則の根拠、文部科学省などの見解を理解したうえで、生徒指導のあり方について考える。さらに学校教育法や文部科学省通知における体罰の禁止を理解し、体罰問題の歴史的経緯を知る。 第7回：学級経営 と いじめ問題：「学級」の制度としくみについて学習したうえで、この学級の人間関係に起因することの多い「いじめ」問題について考える。歴史的経緯を踏まえ、文部科学省のいじめ対策、いじめ防止対策推進法などを理解する。 第8回：義務教育制度と不登校問題 義務教育の制度について法令を理解し、歴史的経緯を踏まえて、現代の文部科学省の不登校に対する方針を知る、さらにフリースクールや特例校などの制度と問題点についても理解する			

第9回：学校における安全 学校管理下での事件や事故，さらには子どもたちを取り巻く危険としてはどのようなものがあるのか，エビデンスを踏まえた理解の必要性について学ぶ。

第10回：教育費負担と教育機会：教育機会の格差に関する統計データを踏まえたうえで，奨学金、高等教育費の無償化政策、幼児教育の無償化などについての動向を知るとともに、背景にある世論についても考える。

第11回：家庭環境、家庭教育と学校：近年，家庭教育の重要性が指摘され，文部科学省は「家庭教育支援」の取り組みを行っている。他方，児童虐待や子供の貧困なども深刻であり，学校はこれらの対策も求められる。歴史や統計データを踏まえてこれらの動向について考える。

第12回：学校教育とジェンダー：日本は世界的にみてジェンダー・ギャップ（男女格差）が大きいことが知られている。一見「男女平等」が実現されているように見える学校教育が，ジェンダー・ギャップを増幅させている側面，性別で区切られることに違和感を持つ児童生徒にとって，学校がづらい環境になりうる側面などについて理解を深める。

第13回：地域社会と学校 新学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」の実現を重視しており，組織的・継続的に地域と学校が連携・協働することが求められる。他方，教育機会の地域間格差，過疎化による学校統廃合など地域社会と学校との関連について多方面から考える。

第14回：職業と教育、学歴の意味：学歴と職業に関する統計データを踏まえたうえで，教育の職業的意義に関する研究動向，学歴社会の説明理論などを紹介しながら考える。

第15回：これからの学校教育と社会 これまでに十分扱うことのできなかったテーマや，提出されたミニレポートを踏まえた補足を行う。

テキスト

テキストは指定せず，毎回配布資料を用意する。

参考書・参考資料等

『日本の公教育：学力・コスト・民主主義』中澤渉著 東京：中央公論新社，2018.3

『暴走する能力主義：教育と現代社会の病理』中村高康著 東京：筑摩書房，2018.6

『教育格差：階層・地域・学歴』松岡亮二著 筑摩書房，2019.7

『アクティブラーニング学校教育の理想と現実』小針誠：講談社，2018.3

このほか教育問題について扱った本（主に新書版のもの）を紹介する。

学生に対する評価

e-Learning による小レポート成績:55%（計13回程度、記述式の小レポートを課し、2週間程度で評価する。）e-Learning による小テスト成績:30%（計5回程度、自動採点式小テストを課す。）授業への参加:15%（出席，発言，ディスカッションなど）

授業科目名：障害者・ 障害児心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：川合裕子 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
「障害」について学び、心理社会的課題及び必要な支援について理解し、共生社会の実現に向けてどのようにサポートしていけば良いかについて、心理学的視点から受講生と共に考え、受講生自身が言葉にできることを目指す。 ・「障害者」の心理社会的課題、取り巻く社会状況についての知識を習得し、問題意識を自分の言葉で述べることができる。 ・特に「精神障害」「発達障害」に焦点を当て、どのような「障害」であるかを理解し、その暮らしを実感できる。 ・「障害」のある、ないに関わらず、共に暮らすあり方について、何ができるか、何をするべきかなどの自分の考えを言葉にして説明できる。			
授業の概要			
「障害」について学び、受講者自身が考える時間と空間を持つ。 ・「身体障害」「知的障害」「発達障害」及び「精神障害」の概要を学ぶ。 ・「障害者」の心理社会的課題及び必要な支援の理解を深める。 ・「障害者」がよりよく生きること、同時に受講者自身を含めたすべての人々がよりよく生きることについて考えるための話し合いを行う。 ・問題に遭遇した際に自ら取り組む姿勢を持つことができるように、グループでの研究発表を通して、能動的に問題の理解を深めるために調査研究を行い、獲得した知識を自分の言葉を使って説明する試みを行う。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、「障害」という言葉について			
第2回：「障害」の種別、定義			
第3回：「障害」への関わりの変遷、ICFの障害の概念			
第4回：「精神障害」の概要、対応の変遷			
第5回：「障害」と心の働き			
第6回：「発達障害」の理解、「障害者」と呼ばれる本人の気持ちと支援			
第7回：「障害者」と呼ばれる人々の家族の気持ちと支援			
第8回：「障害を受容する」とは？			
第9回：「障害者」と呼ばれる人々の取り組み			

第10回：社会参加と合理的配慮、就労にまつわること

第11回：地域で共に暮らすあり方について

第12回：研究発表に向けての準備（グループ及びテーマ決め、調査）

第13回：研究発表に向けての準備（テーマに沿っての調査、グループでの話し合い、まとめ）

第14回：研究発表

第15回：全体の振り返り

定期試験

テキスト

授業中に資料を配布する。

参考書・参考資料等

パメラ・バートラム『特別なニーズを持つ子どもを理解する』平井正三・武藤誠監訳 岩崎学術出版社

その他、授業中に適宜紹介する。

学生に対する評価

平常点40%（課題や発言などに取り組む姿勢を評価）、授業中の小レポート20%（課題で理解度を評価）、学期末試験40%（選択及び記述式の設問により知識の定着を評価）

授業科目名：道徳教育 の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 森本和寿 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目・大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。本授業の到達目標は、(1) 学習指導要領における道徳教育の位置づけ、目標、内容について理解する、(2) さまざまな道徳教育のアプローチについて知り指導案を作成できる、(3) 多様性について理解したうえで授業実践をすることができるである。			
授業の概要			
本授業では、道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：自分自身の道徳教育をふり返る			
第2回：道徳とは何か：道徳の起源、道徳と教育			
第3回：日本における道徳教育の歴史 (1)：戦前・戦中の修身科、教育勅語			
第4回：日本における道徳教育の歴史 (2)：全面主義と特設道徳			
第5回：日本における道徳教育の歴史 (3)：道徳教材と「心」を育てる道徳			
第6回：特別の教科 道徳の特徴			
第7回：「考え、議論する道徳」とは何か			
第8回：道徳科の発問			
第9回：道徳性の発達とモラルジレンマ授業			
第10回：道徳科における内容項目と道徳的価値			
第11回：道徳科における学習評価			
第12回：道徳の指導計画、学習指導案の作成方法			
第13回：道徳の授業実践における目標・教材・指導過程 (1)：模擬授業			
第14回：道徳の授業実践における目標・教材・指導過程 (2)：模擬授業			
第15回：模擬授業と指導案のふり返り			
定期試験			

テキスト

なし。授業内でレジュメを配布し、授業内容や受講生の授業コメントを踏まえながら、適宜参照すべき文献を示す。

参考書・参考資料等

- ・文部科学省「小中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成29年7月）

学生に対する評価

- ・授業コメント 50点：授業内容の理解について問うコメントを求める
- ・最終課題 50点：授業内で作成した道徳の学習指導案課題を課す

授業科目名： 日本の憲法	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤澤宏樹
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標			
日本国憲法の諸規定を理解し、体系的に把握できるようになる。憲法上の論点について、感想を述べるだけではなく法的な視点から論じられるようになる。			
【キーワード】 憲法・基本的人権・統治機構			
授業の概要			
日本国憲法を学習するにあたっては、基本的人権の領域と統治機構の領域にわけて学習するのが便利である。本講義でもこの枠組を用い、憲法の保障する権利と統治機構のあり方を検討することとしたい。			
講義にあたっては、判例を取り上げ、憲法上の論点について考察するという方法をとる。その際、訴訟当事者の生活実態を詳細にたどっていくことを心がけたい。憲法は生活と密接に関わるものだからである。			
授業計画			
第1回 イン트로ダクション（憲法とは何か・日本国憲法の制定過程 講義対象である憲法という語の定義を行い、そのうえで日本国憲法の制定過程に触れる。			
第2回 生命、自由および幸福追求権 憲法 1 3 条の保障する権利について述べて、基本的人権の保障の意味を考える。			
第3回 法の下での平等 様々な判例の検討を通じて、「法の下での平等」について考える。			
第4回 精神的自由権（1）内心の自由 ピアノ伴奏訴訟を考えることにより、内心の自由を保障するとはどういうことかを検討する。			
第5回 精神的自由権（2）表現の自由 表現の自由の意義と限界を考える。わいせつ表現・ヘイトスピーチなどを取り上げる。			
第6回 精神的自由権（3）信教の自由 宗教とは何か、信教の自由の意義と限界を考える。			
第7回 経済的自由権 公衆浴場の距離規制問題から経済的自由がどのような権利なのかを考える。			
第8回 社会権（1）生存権 国家が介入することによってはじめて実現する権利である社会権について考える。生活保護関連訴訟を取り上げる。			
第9回 社会権（2）教育を受ける権利と国家の義務 教育を受ける権利が脅かされている。低所得世帯の子どもの進学問題を通じて、教育を受ける権利と国家の義務について考える。			

第10回 人身の自由・死刑制度 死刑廃止は国際的潮流なのに、なぜ日本で死刑制度が廃止されないのか。人身の自由と関連させて考える。

第11回 国会と選挙制度 国会の仕組みをおさらいし、選挙制度と関連づけて両議院のあり方を示す。

第12回 内閣 内閣制度とは何なのか。そして他国はどのような仕組みを有しているのか。外国と比較しながら検討する。

第13回 裁判所 裁判所の仕組みをまとめたうえで、日本の司法制度の問題を考えてみる。

第14回 地方自治 「地方自治は民主主義の学校」という有名な言葉がある。これはどういうことなのか。地方自治の仕組みを探る。

第15回 憲法とは何か ふたたび これまでの講義を踏まえて「憲法とは何か」をもう一度考える。

定期試験

テキスト

上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50！（第2版）』（有斐閣、2020年）

『ポケット六法2022』有斐閣

六法は市販されているものであれば何でもいいが、必ず最新版を用意すること。

参考書・参考資料等

芦部信喜著（高橋和之補訂）『憲法（第七版）』岩波書店

学生に対する評価

平常点（授業時間内のレポートなど）：50%

期末試験：50%

授業科目名：スポーツ 実技A	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 三宅 孝昭 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標：テーマは、レクリエーション・スポーツの意義の理解。到達目標は、スポーツの本質を理解し、生涯スポーツに向け、スポーツを楽しむために必要なルール・マナー、基礎技術、必要な知識を修得すること。そのうえで、仲間とのコミュニケーションを図り、スポーツを安全に楽しむことができるようになること。			
授業の概要：本授業の目的は、様々なレクリエーション・スポーツを通して、友人とともに身体を動かす喜びや楽しさを共有する意義を学ぶことである。スポーツの基礎技術習得や試合は、そのための手段となる。本授業では、前半で複数のレクリエーション・スポーツ、後半で卓球を教材として、用いる。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、授業目的、授業展開、評価について 第2回：体力測定 第3回：アイスブレイキングとグループ・レクリエーション 第4回：レクリエーション・スポーツの基礎（フライング・ディスク） 第5回：レクリエーション・スポーツの展開（フライング・ディスク） 第6回：レクリエーション・スポーツの基礎（インディアカ） 第7回：レクリエーション・スポーツの展開（インディアカ） 第8回：レクリエーション・スポーツの基礎（キンボール） 第9回：レクリエーション・スポーツの展開（キンボール） 第10回：卓球の歴史的な背景とルールの理解 第11回：卓球の 基本的ルールの理解と基礎技術の説明、習得 第12回：卓球の基礎技術の習得とシングル試合の展開 第13回：卓球の基礎技術の習得とダブルス試合の展開 第14回：卓球のレクリエーション・スポーツとしてのゲーム展開（シングル） 第15回：卓球のレクリエーション・スポーツとしてのゲーム展開（ダブルス）			
テキスト：テキストは用いない。必要に応じて資料を配布する。			
参考書・参考資料等：「観るまえに読む 大修館 スポーツルール2022」大修館書店			
学生に対する評価			

授業への能動的な取り組み:50%

ルール、戦術などのスポーツ理解とレクリエーション的理解に関するレポート:50%

授業科目名：スポーツ 実技B	教員の免許状取得のための 必修科目 ／選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 三宅 孝昭 担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標：テーマは、スポーツの意義の理解。到達目標は、スポーツの本質を理解し、生涯スポーツに向け、スポーツを楽しむために必要なルール・マナー、基礎技術、必要な知識を修得すること。そのうえで、仲間とのコミュニケーションを図り、スポーツを安全に楽しむことができるようになること。			
授業の概要：本授業の目的は、様々なスポーツを通して、友人とともに身体を動かす喜びや楽しさを共有する意義を学ぶことである。本授業で教材とするバドミントンやインディアカの基礎技術習得や試合は、そのための手段となる。なお、インディアカは、バレーボールのルールにバドミントンを合体させたようなスポーツである。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、授業目的、授業展開、評価について 第2回：体力測定 第3回：アイズブレイキングとグループ・レクリエーション 第4回：個人スポーツとして、バドミンントンの歴史的な背景とルールの理解 第5回：バドミンントンの 基本的ルールの理解と基礎技術の説明、習得 第6回：バドミンントンの基礎技術の習得とシングル試合の展開 第7回：バドミンントンの基礎技術の習得とダブルス試合の展開 第8回：バドミンントンのレクリエーション・スポーツとしてのゲーム展開（シングル） 第9回：バドミンントンのレクリエーション・スポーツとしてのゲーム展開（ダブルス） 第10回：集団スポーツとして、インディアカの歴史的な背景とルールの理解 第11回：インディアカの 基本的ルールの理解と基礎技術の説明、習得 第12回：インディアカのサーブ及びレシーブ技術の習得 第13回：インディアカのチーム連携プレイとチーム戦術の展開 第14回：インディアカのレクリエーション・スポーツとしてのゲーム展開 第15回：インディアカの技術レベルに応じたゲーム展開とその工夫			
テキスト：テキストは用いない。必要に応じて資料を配布する。			
参考書・参考資料等：「観るまえに読む 大修館 スポーツルール2022」大修館書店			
学生に対する評価： 授業への能動的な取り組み:50%			

ルール、戦術などのスポーツ理解とレクリエーション的理解に関するレポート:50%

授業科目名： 英語 I a 【R&W】	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：古賀哲男、平松さやか、菅原愛理、溝川泰章
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
本授業では、平易なコミュニケーションを行うための基礎英語力を養成することをめざし、以下の目標を設定する。基本語彙、基本文法を修得し、平易な英文を読んで理解し書くことが出来る、平易な英語の文章を正しく理解・把握できるようになる、英和辞典を効果的に活用し、平易な英文を読んで理解し書くことが出来る。また、ペアワーク、グループワーク等の時間を適宜設けて、アクティブ・ラーニングを主体とした授業を進める。			
授業の概要			
単語テストを行い、語彙習得の確認をする。			
構文、文法事項の確認しながら、英文を精読する。			
練習問題を解き、正しく英文を読めているか、内容を把握できているかを確認する。			
発表の機会を多く設けて、積極的な参加を求める。			
授業計画			
第1回 オリエンテーション 講義概要や計画、成績評価基準の説明、春学期多読プロジェクトの説明			
第2回 Unit1 All About Food A Restaurant for Change Chapter1			
第3回 Unit1 All About Food Let's make Blueberry Muffins! Chapter2			
第4回 Unit2 Inventions Computer Beats Champions Chapter1			
第5回 Unit2 Inventions The Most Useful Inventions Chapter 2			
第6回 Unit3 Studying Abroad What to Study Abroad? Chapter1			
第7回 前半学習の確認 Unit 1～3の復習を行い、理解を深める 到達度を確認する			
第8回 Unit3 Studying Abroad My Travel Journal Chapter2			

第9回	Unit4 Money and Budgets	A Student Budget
	Chapter1	
第10回	Unit4 Money and Budgets	My Money
	Chapter2	
第11回	Unit5 Our Modern lifestyle	Cell Phone Etiquette
	Chapter1	
第12回	Unit5 Our Modern lifestyle	Smartphone Apps for Travellers
	Chapter2	
第13回	Unit6 The Olympics	The Olympic Flames
	Chapter1	
第14回	Unit6 The Olympics	Unusual Olympic Sports
	Chapter2	
第15回	講義内容の確認と総括 総復習を行い、理解を深める 到達度を確認する	

テキスト

Active Skills for Reading 1 (センゲージ)

Value 1400 (数研出版)

参考書・参考資料等

ジーニアス英和辞典

プログレッシブ英和中辞典

リーダーズ英和中辞典

学生に対する評価

クラスワーク、課題:30% (発表、授業内タスク、提出物の内容の評価する)

小テスト:25% (テキストを中心とした復習テスト)

期末テスト:25% (テキストを中心とした復習テスト)

単語テスト:10% (『Value1400』より出題)

多読:10% (レポート、読解チェック)

授業科目名： 英語 I b [L & S]	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：藤枝豊、アイリス・ローウェル、森本恒平、ホリー・マーク
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
英語のリスニングそしてスピーキング力の向上には、英語の音の仕組みを理解することが必要である。「英語が聞き取れない」一つの理由は、日本語にはない英語独特の音の仕組みを把握していないことにある。英語を聞き取れるようにするには、それを発話する練習が重要である。本授業は、リスニングそしてスピーキング力の向上に重点を置き、基礎的な英語力を養うことを目的とする。リスニングでは、英語での会話やリスニングの基本的なテクニックや戦略を学び、内容を理解していく。スピーキングでは、自分の英語に自信を持ち、堂々と考えを発表することができるよう訓練を行う。英語発音、語彙、フレーズの練習を通して、話し言葉のメッセージ、アナウンス、身の回りの具体的な事柄についての話を理解できるように授業を進めていく。 (到達目標) ①日常的な出来事や特定のテーマについて英語で発表できる。 ②英語のイントネーション、音節、音素の区別、強弱パターンを意識して表現できる。 ③多様な文脈の中で話されることの要点をつかむことができる。 ④多様な文脈の中で話される表現を使って英文を作成できる。			
授業の概要			
本授業は教科書を用いて、ペアワークやグループワークを中心とした実践型の授業である。会話を中心としたペアワークやテーマについてグループで意見を共有し、発表する活動を行う。授業の始めにクラスメートと英会話を行う。授業の前半は英語の発音練習を強化し、英語の「音」について理解する。英語の発音を学習しながら、発話練習を行い、スピーキングの実践を行う。さらに英語プレゼンテーションを実施し、コミュニケーション能力を高める。授業外学習では音声動画共有アプリ「Microsoft Flip」を使った音読練習やスピーチ課題を実施し、教室外でも英語練習ができるようにする。			
授業計画			
第1回目 Introduction to Class：授業や評価に関する説明			
第2回目 Unit 1: How was your vacation?: So am I/do I, Neither am I/do Iを使った賛成・反対の表現学習 Online Workbookの利用			

第3回目	Unit 1: How was your vacation? So am I/do I, Neither am I/do Iを使った賛成・反対の表現学習 Flipアプリの利用
第4回目	Unit 2: I think it's boring!: 分詞表現-ed/-ingの学習と理解 Online Workbookの利用
第5回目	Unit 2: I think it's boring!: 分詞表現-ed/-ingを使った実践演習 Flipアプリの利用
第6回目	Unit 3: Do it before you're 30!: 接続詞を使った表現学習 Online Workbookの利用
第7回目	Unit 3: Do it before you're 30!: 接続詞を使った実践演習 Flipアプリの利用
第8回目	Review Test 1 Unit 1-3までの総復習テスト
第9回目	Unit 4: The best place in the world!: 比較・最上級の学習と理解 Online Workbookの利用
第10回目	Unit 4: The best place in the world! + Presentation: 比較・最上級の実践演習 Individual presentation 1 Flipアプリの利用
第11回目	Unit 5: Where is the party? + Presentation: wh-/Howを使った演習 Individual presentation 2 Online Workbookの利用
第12回目	Unit 5: Where is the party? + Presentation: wh-/Howを使った実践会話 Individual presentation 3 Flipアプリの利用
第13回目	Unit 6: You should try it!: shouldを使った提案文の理解 Individual presentation 4 Online Workbookの利用
第14回目	Unit 6: You should try it! + Presentation: shouldを使った実践演習 Individual presentation 5 Flipアプリの利用
第15回目	Review of the Class: 前期授業の総復習 Unit 4-6までの総復習

テキスト

Smart Choice Book 2 with Online Practice (4th edition) 著者: Ken Wilson & Thomas Healy 出版社: Oxford University Press

参考書・参考資料等

高校教科書、参考書、単語帳など、英語発音やプレゼンテーションに関する文献

学生に対する評価

Homework: 30% 予習復習課題を評価する。

Online Workbook: 20% Onlineワークの活動状況を評価する。

Individual Presentation: 20% プレゼンテーションを評価する。

Unit Review Test: 30% 学期中間と終わりに復習テストを実施する。

授業科目名： フランス語 I a 【講読】	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：中所聖一 山口威、秋吉孝浩、大場千景 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 初級フランス語を、聞き、話し、読み、書くための、総合的な能力の育成を目指す。基本的な文法を学ぶことで、主として日常生活に即した会話文を身に付けていく。			
授業の概要 基本的には以下の教科書を用いて、適宜、補助的なプリントを配布してそれを参照したり、映像資料を視聴しながら、授業を行い、フランス語の習得を目指す。また同時に、授業内での小テストなどにおいて習得確認も行う。			
授業計画 第1回 フランス語について 講義の説明とフランス語についての概略 第2回 発音 フランス語の発音 第3回 発音 フランス語の発音とつづり字の関係 第4回 発音 フランス語の発音の確認 第5回 不定冠詞・定冠詞 不定冠詞・定冠詞と名詞の性・数 第6回 不定冠詞・定冠詞 不定冠詞・定冠詞と提示の表現 第7回 不規則動詞etre 不規則動詞etreの理解 第8回 不規則動詞etre 不規則動詞etreの使い方 第9回 不規則動詞etre 不規則動詞etreの応用と否定形 第10回 不規則動詞avoir 不規則動詞avoirの理解 第11回 不規則動詞avoir 不規則動詞avoirの使い方と部分冠詞 第12回 不規則動詞avoir 不規則動詞avoirの応用と否定形 第13回 第一群規則動詞 第一群規則動詞の理解 第14回 第一群規則動詞 第一群規則動詞の使い方と疑問文 第15回 講義内容の確認と総括 これまでのすべての内容の確認 定期試験			
テキスト 『新ケンとジュリー 1』（駿河台出版）			
参考書・参考資料等			

授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

学期末試験:50%

授業中に行う小テスト:50%

フィードバックは授業内に、あるいは必要に応じてKVCで行う。

授業科目名： フランス語 I b 【文法】	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 兼山美幸、久後貴行、秋吉孝浩 担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標 これまでに学習した様々な文法事項の復習と確認をしつつ、日常生活で用いられる基本的な語彙や表現を学んでいく。基本のなかの基本をしっかりと身につけ、様々な練習を通してフランス語の基礎的なコミュニケーション力の習得を目指す。			
授業の概要 指定するテキスト教材に沿って進めていく。音読練習、ペアやグループでの会話練習も積極的に取り入れていく。また映像を用いて、各課の場面の理解と状況把握に役立てるとともに、フランス文化も紹介していく。			
授業計画 第1回 フランス語の音と文字 アルファベ、主な綴り字の読み方 第2回 第1課：二人の出会い 主語人称代名詞、être の活用、国籍の言い方 第3回 第2課：自己紹介をする 規則動詞の活用、形容詞の性・数の一致、名前の言い方 第4回 第3課：好きなものを言う 母音で始まる動詞の活用、名詞の性・数と定冠詞、疑問文 第5回 第4課：これは何ですか？ 疑問代名詞、不定冠詞と指示代名詞、形容詞の位置 第6回 第5課：ここはどこ？ 否定文、疑問副詞 où、il y a の表現、量の表現 第7回 第6課：年齢の話 avoir の活用、職業を表す名詞、疑問形容詞 第8回 学期前半の復習とまとめ 到達度の確認と既習文法の総まとめ、練習問題 第9回 第7課：日本料理店に行く 部分冠詞、冠詞のまとめ、定冠詞の縮約 第10回 第8課：布団が好き 所有形容詞、人称代名詞の強勢形 第11回 第9課：店で買い物をする 指示形容詞、指示代名詞、形容詞の比較級、疑問副詞 combien 第12回 第10課：ジャパン・エキスポ 命令形、補語人称代名詞、中性代名詞 第13回 第11課：天候の話 非人称構文、形容詞女性形の特殊な形 第14回 学期全体の復習とまとめ（1）既習文法の総まとめと練習問題 第15回 学期全体の復習とまとめ（2）到達度の確認と既習文法の総まとめ			
テキスト 『パリのクール・ジャパン』（朝日出版社）			
参考書・参考資料等			

授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

平常点:20%（受講態度、授業への参加度等を総合的に評価する。）

中間試験:40%

期末試験:40%

授業科目名： ドイツ語 I a 【講読】		教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目		単位数： 1単位		担当教員名： 志田章、野間砂理、甲斐浩一	
						担当形態： クラス分け・単独	
科 目		教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		外国語コミュニケーション					
授業のテーマ及び到達目標							
ドイツ語圏の日常生活において簡単な要件であればこなせる運用能力を身につけるため、ドイツ語を「話す」「聞く」「読む」「書く」トレーニングを行います。特に、ドイツ語を使って行動し、人と意思疎通することができるようになるため、コミュニケーション能力の養成に重点を置きます。							
【テーマ・キーワード】							
ドイツ語、コミュニケーション、初級会話							
授業の概要							
・ 受講者同士が助け合い・学び合うペアワークやグループワーク中心の授業を進める。							
・ 文法の説明を受けて、それを訓練する方法ではなく、まず言語使用を体験して、そこから言語の仕組みを予測・発見するアクティブラーニングの授業を行う。							
・ 教科書とは別途、文章やテキスト、小テスト等を適宜使用し、ドイツ語文法の理解度を促進し、チェックする。							
授業計画							
第1回 講義概要の説明、つづり字と発音 講義の進め方を説明し、成績評価基準やドイツ語を学ぶことの意義を解説する。つづり字と							
第2回 Lektion1 Neu hier? ドイツ語のあいさつと自己紹介の表現を覚え、人称代名詞と動詞の変化を学ぶ。							
第3回 Arbeitsbuch Lektion1で学んだあいさつや自分の好きなもの、疑問文を使った練習を行う。							
第4回 Magst du Tennis? 自分の好きなものを表現する仕方を学び、Wで始まる疑問文とその答え方を学ぶ。							
第5回 Arbeitsbuch Magst du Tennis? で学んだあいさつや自分の好きなもの、疑問文を使った復習を行う。							
第6回 Lektion2 Mein Kurs 学校生活に関する表現や友人を紹介する表現を学び、人称代名詞と動詞の変化をさらに学ぶ							
第7回 Arbeitsbuch Lektion2で学んだ、友人の紹介や数字を使った表現などを練習する。							
第8回 Lektion2 Zahlenspiele 数字を使った表現を学ぶ。机のまわりにあるものをドイ							

ツ語で表現する。冠詞を学ぶ。

第9回 Arbeitsbuch Mein Kurs 2 Zahlenspieleで学んだ、友人の紹介や数字を使った表現などを練習する。

第10回 Lektion3 Lieblingstiere, Lieblingsdinge 動物や身の回りのものを表現しながら、名詞の格を学ぶ。

第11回 Arbeitsbuch Lieblingstiere, Lieblingsdinge 1 Lektion3で学んだ、動物や身の回り物に関する表現やインタビューなどを復習する。

第12回 Lektion3 Interview in der Klasse インタビューや報告の表現を学ぶ。持ち物や買っている動物について話す。

第13回 Arbeitsbuch Lieblingstiere, Lieblingsdinge 2 Interview in der Klasseで学んだ、動物や身の回り物に関する表現やインタビューなどを練習

第14回 Arbeitsbuch Kleine Pause1 Lektion1～3で学んだ、好きなものの表現や数詞を復習する。

第15回 これまでの復習 春学期の授業で学んだ、自己紹介や学校生活、時間の表現等を復習する。

定期試験

テキスト

『プリマ・プルス』朝日出版社

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

学期末試験:50%（「到達目標」の記載内容を測る試験を行う）

授業への参加:50%（課題、小テスト、発表、ペアワーク、グループワーク等の参加度）

※授業への参加状況や態度によって減点する場合がある。

授業科目名： ドイツ語 I b 【文法】	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 亀井一、志田章、長縄寛、 甲斐浩一
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
授業は演習形式で行い、読む・書く・聞く・話す技能をバランスよくトレーニングする。出席者には、積極的に授業に参加することが求められる。かならず毎時間、口頭での発表（ミニ・ドイツ語会話）の義務が課せられる。ドイツ語が公用語として用いられているドイツ・オーストリア・スイスなど、いわゆるドイツ語圏の国々の生活や文化の特色と魅力についても学ぶ。			
到達目標			
初級ドイツ語の文法項目の前半部分を学習し、初級レベルの読み書き、会話ができる。			
授業の概要			
①以下に指定するテキスト			
②授業中に配布するプリント（自作）			
を中心に解説、演習を行う。			
授業計画			
第1回 講義概要の説明、アルファベットと発音 講義の進め方や成績評価基準を説明し、ドイツ語圏の国々や文化等について解説する。アルファベットと発音の規則を学ぶ。			
第2回 Lektion0 ドイツ語のあいさつ ドイツ語のあいさつ、数詞、季節、月、曜日、簡単なフレーズを学ぶ。			
第3回 Lektion1 人称代名詞・不定詞・定動詞 主語になる人称代名詞とそれに応じた動詞の変化を学ぶ。			
第4回 Lektion1 seinの現在人称変化 不規則な変化をするseinと否定表現を学ぶ。			
第5回 Lektion2 名詞の性と冠詞 名詞の性に合わせて冠詞が変わり、それらが格変化することを学ぶ。			
第6回 Lektion2 名詞の4格変化とhabenの現在人称変化 habenの人称変化を学びながら、名詞の4格変化を習得する。			
第7回 Lektion3 名詞の2・3格 名詞の2・3格の働きを学び、それらを使った表現を習得する。			
第8回 Lektion3 人称代名詞 人称代名詞の格変化を学び、3格・4格の語順を学ぶ。			
第9回 Lektion4 不規則動詞の現在人称変化 不規則に変化する動詞を覚え、変化の規則を学ぶ。			
第10回 Lektion4 命令形と否定表現のまとめ 人称に合わせた動詞の命令形を学び、様々な否定表現			

を習得する。

第11回 Lektion5 不定冠詞類 所有冠詞や否定冠詞を学ぶ。

第12回 Lektion5 定冠詞類 dieserやjener等の定冠詞類を学ぶ。

第13回 Lektion5 前置詞1 3格・4格支配の前置詞を学ぶ。

第14回 Lektion5 前置詞2 3・4格支配の前置詞と前置詞と冠詞の融合を学ぶ。

第15回 講義の復習 これまで学んだ表現や文法を復習する。

定期試験

テキスト

今井田亜弓、前田織絵『シュリット・フュア・シュリット』三訂版、三修社

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

平常点:40% (授業時間中毎回行われる小テスト。)

学期末試験:60%

授業科目名： スペイン語 I a 【講読】	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： ヘラルド、河邊真次、 寺尾江利子、寺本あけみ 村上寿英
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
【テーマ】「スペイン語の運用力と文化能力を身につけよう」			
【キーワード】「見る、聞く、話す、書く、読む」			
【到達目標について】			
まずアルファベットから動詞の活用（現在）を理解するため、教科書第7課までを到達目標とします。また授業内容を確実に理解できれば、スペイン語技能検定6級レベルまで到達することができます。			
授業の概要			
スペイン語の初級レベル習得の要は動詞の活用です。従って本科目では「現在」の動詞活用をメインに授業を進めていきます。ただやみくもに活用を覚えるというのではなく、発音練習なども行いながら「使えるスペイン語」「日常生活に役立つスペイン語」の習得を目指します。また学習を重ねながら、購読、作文練習にもチャレンジしましょう。			
授業計画			
第1回 Lec.1 正しく発音できるようになる。 アルファベット、音節分け、アクセント			
第2回 挨拶できる。 映像「ホタの楽団」			
第3回 Lec.2 依頼することができる。 名詞、冠詞、主格人称代名詞			
第4回 カフェで注文、大学の事務所で依頼することができる。 所有形容詞、映像「サラマンカ」、Diálogo: Un café con leche por favor. La matrícula en Cursos Internacionales.			
第5回 Lec.3 タクシーで行き先を伝える。 形容詞、動詞ser直説法現在			
第6回 国籍、出身、身分を訪ねたり、伝えたりできる。 ser de +名詞の表現、否定文と疑問文、映像「サラマンカ大学」、Diálogo:¿De dónde es usted?			
第7回 Lec.4 ある特定の場所について尋ねる。 動詞estarの直説法現在、serやestarといっしょに使われる前置詞について			
第8回 「～はどこにありますか。」 指示代名詞と指示形容詞、映像「生ハム・腸詰工場」			
第9回 Lec.5 存在や所在、状態や性質を表すことができる。 hay、hayとestar、ser+形容詞、e			

star+形容詞

第10回 「青色のファイルは誰のですか。」 時刻、時間、日付、映像「エルチェ、靴とヤシ」

第11回 Les.6 現在のこと、習慣的な行為を表す。 直説法現在の規則動詞

第12回 「私は文学部の学生です。」 疑問詞、疑問詞を用いた疑問文の作り方、映像「おつまみや肴」

第13回 Les.7 休暇のプランについて語ることができる。 語根母音変化動詞の現在形

第14回 「1週間、祖父母の田舎に帰るつもりです。」 目的格人称代名詞（直接・間接）、前置詞格人称代名詞、映像「アリカンテ、都市と祭り」

第15回 講義内容の確認と総括（コミュニケーションを中心に）

定期試験

テキスト

『五感でめぐるスペイン語 ライト版』濱松法子 エンリケ・アルマラス・ロモ 安富雄平著（朝日出版社）

参考書・参考資料等

『現代スペイン語辞典』白水社

『新スペイン語辞典』研究社

『プログレッシブ・スペイン語辞典』小学館

『西和辞典』『和西辞典』『西和小辞典』白水社

『ペンギン 現代スペイン語辞典』南雲堂フェニックス

学生に対する評価

課題・小テスト:50%（前回の課題や小テストについては授業の初めにフィードバックを行います。）

学期末試験:50%

授業科目名： スペイン語 I b 【文法】	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高岡麻衣、新谷美紀子 神崎隼人、村上寿英 牧野香織
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
スペイン語の基礎となるルールを学びながら挨拶、自己紹介、簡単な日常的な表現を学びます。 また、スペイン語の文法的な語学学習だけでなく、スペイン語を話す国々の文化や習慣なども学習します。			
【テーマ・キーワード】			
身近なスペイン語・スペイン文化			
【到達目標について】			
スペイン語学習を通して何らかの形で人との繋がりが持てるようになることを目指します。学習した文法的内容の理解と学習したスペイン語を使って自分の言いたいことが表現できたり、話し相手に質問したりすることができるようになることを目標とします。			
授業の概要			
指定するテキストを中心に身近な会話、文法事項を学び、聴解を含む練習問題を通して、理解を確認、強化します。その後運用能力を高めるために、会話例を再現したり、自分たちのことに置き換えて会話学習をします。最後に活動学習を取り入れてペアもしくはグループワーク学習（アクティブ・ラーニング）をします。また、自分のことをスペイン語で表現するミニ課題が毎回もしくは各課ごとにあります。			
授業計画			
第1回 ガイダンス 1 あいさつする 講義概要や授業計画、成績評価基準の説明、学習アドバイスの説明			
第2回 1 あいさつする自己紹介 挨拶表現—基礎、簡単な自己紹介			
第3回 2 食料品を買う 名詞について学ぶ			
第4回 2 食料品を買う 買い物場面のスペイン語			
第5回 3 人を紹介する 動詞serと形容詞			
第6回 3 人を紹介する 人物描写のスペイン語			
第7回 発展練習 1 スペイン語圏の文化に親しもう①食料、家族紹介			

第8回	4	仕事や勉強について話す	動詞について学ぶ①
第9回	4	仕事や勉強について話す	バージョンアップ自己紹介
第10回	5	日常生活について話す	動詞について学ぶ②
第11回	5	日常生活について話す	1日の流れ、1週間の流れについて語る
第12回	発展練習 2	スペイン語圏の文化に親しもう②料理、食習慣	
第13回	6	自分の出身地について話す	動詞estar
第14回	6	自分の出身地について話す	自分の出身地や住んでいる場所について話す
第15回	まとめ	継続学習のための学習内容の理解確認と全体の振り返り	
定期試験			
テキスト			
『アクション!』《ライト版》白水社			
参考書・参考資料等			
推薦辞書 『プログレッシブ スペイン語辞典〈第2版〉カレッジエディション』小学館			
学生に対する評価			
学期末課題（試験）:50%（【到達目標】の記載内容を測る記述、もしくは口頭試験を行います。）			
平常課題:50%（毎回課題を出します。期日、指示を守って提出してください。）			

授業科目名： 中国語 I a	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： トウ岩、浦元里花、桂小蘭 桜木陽子、山内一恵、張衛 島田順子、楊麗珍、和泉ひとみ、閻立
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
楽しく学びながら中国語の基礎が身につくことを目指す。			
主に学生に即した身近な語彙や会話を暗唱して、日常生活ですぐに使えることを目標にしている。			
内容①発音：発音の基礎を一通り学びます。繰り返し練習し、確実に身につける。			
②必要な文法事項をまとめ、基礎的な表現をマスターする。			
【到達目標】			
①中国語の発音（ピンイン）の特徴を理解し、正しい発音ができるようになること。基本的な中国語の文法を理解できるようになること。			
②中国語の基礎的事項の習得と、聞く・話す・読む・書く・訳すの5技能が身につくようになること。			
授業の概要			
教科書を中心に、解説する。			
講義の復習を確実に行う。			
配布資料等で講義を進める。			
一方通行の講義ではなく、一人一人が発言できるようにする。			
授業計画			
第1回 ガイダンス発音 講義計画、授業の進め方などの説明 声調、単母音、練習問題			
第2回 発音（2） ①子音表 ②有気音と無気音 ③そり舌音			
第3回 発音（3） 鼻音音			
第4回 発音（4） ①軽声 ②声調の変化			
第5回 発音小テスト 簡単な挨拶 挨拶用語			
第6回 第1課 1. 人称代名詞 2. 動詞述語文 3. 副詞「也」と「都」 4. 省略疑問			
第7回 第2課 1. 「是」の文 2. 疑問詞「谁（誰）」と「什么」 3. 所有・所属を示す「的」			
第8回 第2課 4. 名前の聞き方・言い方			
第9回 第3課 1. 指示代名詞 2. 所有を表す動詞「有」 3. 助数詞・数詞			
第10回 第4課 1. 形容詞述語文 2. 疑問詞「怎么样（様）」			

第11回 第4課 3. 疑問詞「多少」と「几」 4. 助詞「想」と「要」

第12回 第5課 1. 日付、曜日の言い方 2. 時刻の言い方 3. 比較の表現

第13回 第6課 ①場所を表す代名詞 ②「存在」を表す動詞「在」 ③反復疑問文

第14回 まとめ ・発音およびコミュニケーションに関する復習

第15回 まとめ ・第1課から第6課までの復習

定期試験

テキスト

南雲智、趙暉「始めよう中国語」白水社、2005年1月1日

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

学期末試験:70%

小テスト、その他:30%

授業科目名： 中国語 I b	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： トウ岩、パン新平、安力 胡金定、谷力、張衛、陳薇 陳傑中、陳昭宜、鄭萍、范紫 江
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
初級中国語を学ぶ学生を対象として、中国語の発音と基本文法を習得し、基礎的な中国語の運用能力の養成を目的とする。テキストの特色は、学生生活に密着したもので、活用度の高い内容である。中国語の基礎力を身に付けるように、聞く、話す、書く練習を行う。			
発音に重点を置く。中国語を正確に読めることを目指し、発音の徹底指導と訓練を行う。			
「聴く」「話す」を中心にしたコミュニケーション能力の養成			
【到達目標】			
1. ピンインをちゃんと読むことができる。			
2. 漢字の正しい発音を覚える。			
3. 基本的な文法事項が正しく理解でき、日常生活における会話能力を身に付けることを目標とする。			
社会とつながり、多様な人々と協働できる人間力			
授業の概要			
発音に重点を置く。中国語を正確に読めることを目指し、発音の徹底指導と訓練を行う。			
「聴く」「話す」を中心にしたコミュニケーション能力の養成			
1課 - 5課まで学習する。期末試験を行う。			
授業計画			
第1回 中国語はどんな言葉。 基本母音			
発音（1） 基本的な挨拶表現			
第2回 発音（2） 複合母音、声調			
基本的な挨拶表現			
第3回 発音（3） 子音、音節			
第4回 発音（4） 音節表、変調などの発音事項			
第5回 第1課「お名前は」 人称代名詞			
名詞述語文			

第6回 第1課「お名前は」 第1課の復習、練習
 第7回 第2課「これは何ですか」 指示代名詞
 疑問詞疑問文
 第8回 第2課「これは何ですか」 第2課の復習、練習
 第9回 第3課「あなたはどこに行きますか」 動詞述語文
 所有を表わす「有」
 第10回 第3課「あなたはどこに行きますか」 第3課の復習、練習
 第11回 第4課「このバックはいくらですか」 指示代名詞（2）
 形容詞述語文
 第12回 第4課「このバックはいくらですか」 第4課の復習、練習
 第13回 第5課「あなたは夜用事がありますか」 数字
 日付・時刻を表わす語
 第14回 第5課「あなたは夜用事がありますか」 第5課の復習、練習
 第15回 総合練習 1～5課を復習し、読む、書く練習する。
 定期試験

テキスト

『中国語はじめの一步』（白水社）伊 景春・竹島 毅 著

参考書・参考資料等

授業中に適宜指示する。

学生に対する評価

試験成績:70%（教科書の範囲内で総合的にチェックする。）

平常点（授業課題など）:30%（学習態度、及び課題などで評価する。）

授業科目名： 朝鮮語 I a	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 田星姫、崔孝先、朴英珠 大山高弘、裴貴得
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
初めて韓国語を学習する人のための入門クラス。			
初めにハングル文字の読み・書きを身につける。テキストに沿って16課まで学習する。ハムニダ体の名詞文とその否定、ハムニダ体用言文、疑問詞の使い方、数詞、基本的な助詞などを学ぶ。あいさつ表現、自己紹介、飲食店での注文など、生活に必要な表現を習得する。			
発音の反復練習、文法事項の説明、練習問題、小テストを通して各課の目標が達成できるよう心掛けたい。韓国語の音やリズムを身につけるよう、常に発音を重視する。			
【到達目標】			
1. ハングル文字が書け、音読できる。			
2. 辞書が引ける。			
3. 自己紹介ができる。			
4. あいさつ表現、決まり文句が話せる。			
5. 数字を聴き取り、買い物ができる。			
6. 基本文型を含んだ短い文が読め、書ける。			
授業の概要			
・テキストと配布教材を中心に進める。			
・教師の説明、学生の発表（練習問題の答など）、学生同士の意見交換（隣の人との韓国語で役割練習）を組み合わせる。			
・となりの人と韓国語で役割練習をする。			
・CDを使って聴き取りをする。			
・会話、練習問題（パターンプラクティス）、発音（ミム・メモ練習）を反復する。			
・毎週小テストを実施する（ペーパーテスト、またはMicrosoft Office Formsにて）。			
授業計画			
第1回 ハングルとは基本母音			
第2回 子音 1（平音）			
第3回 パッチム 1			
第4回 子音 2（激音）子音 3（濃音）			

第5回 複合母音 第6回 ハッチム 2 発音の法則 第7回 ～は～です 第8回 ～ではありません 第9回 ある・ない（存在詞） 第10回 疑問詞 第11回 数詞 1 第12回 数詞 2 第13回 ～です・ます（ハムニダ体） 第14回 基本助詞 第15回 まとめ 春学期の復習 定期試験
テキスト 聴いて覚える初級朝鮮語（白水社）
参考書・参考資料等 「TOPIK（韓国語能力試験）Ⅰ」過去問題 「ハングル検定能力試験5級」過去問題
学生に対する評価 小テスト:40%（授業内容に対する理解度・習得度） 課題:10%（「読む・書く・話す・聴く」の4技能の習得状況） 期末試験:40%（辞書など持ち込みなし） 授業への自主的取り組み:10%（予習・復習・受講態度）

授業科目名： 朝鮮語 I b	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 松田由美子、金美華、南美恵 李美丹、李裕淑
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
韓国語の基礎を学習する。ハングル文字の構造と発音、韓国語の基礎文法と日常会話を学ぶ。文字を学ぶことによって身の回りで目にするハングルが読めるようになり、日本語と文の構造が似ているため単語が分かれば文の大体の意味が分かるようになる。また、基本単語に加え、助詞や文末語尾の使い方を学ぶ。			
テキストを使用し、講義と演習、小テストを通して「読む・書く・話す・聞く」力がつくように、上達を実感しながら進めていく。【テーマ・キーワード】			
韓国語の文字と発音・基本文法			
【到達目標について】文字の読み書きが出来、簡単な文を組み立て表現することが出来るまでを目標とする。			
授業の概要			
テキストを使用し、講義と演習、小テストを通して「読む・書く・話す・聞く」力がつくように、上達を実感しながら進めていく。			
授業計画			
第1回	Lesson1	韓国語のしくみ・子音字と母音字<1>	
第2回	Lesson2	子音字と母音字<2>	
第3回	Lesson3	子音字と母音字<3> 激音・二重母音字	
第4回	Lesson4	パッチム	
第5回	Lesson5	自己紹介	
第6回	Lesson6	指定詞	
第7回	実践会話 1	「はじめまして」	
第8回	Lesson7	指定詞(否定)	
第9回	Lesson8	漢数詞	
第10回	Lesson9	存在詞・位置名詞	
第11回	Lesson10	へヨ体基本形	
第12回	Lesson11	へヨ体縮約形<1>	
第13回	Lesson12	へヨ体縮約形<2>	

第14回 実践会話2 「これ、いくらですか」

第15回 まとめと復習 到達度確認

定期試験

テキスト

『サクサクっと韓国語 改訂版』金美華（白帝社）

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

小テスト:30%

課題・発表:20%

学期末試験:50%

小テスト課題は随時フィードバックを行う。発表・試験についての詳細は授業時に解説する。

授業科目名： データサイエンス概論	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野山 知子、草薙 信照、 小川 貴之
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
「データサイエンス概論」は、いまやすべての大学生に求められる数理・データサイエンス・AIの全体像を把握することを目的としています。現代社会における仕事や生活の中で、AIやデータサイエンスがどのように利用されているか、どのような活用方法があるか、そしてどのような課題があるのかを学びます。 加えて、統計学をはじめとするデータサイエンスで利用される手法を幅広く学びます。それぞれの手法の数理的な理解よりも、どのような場面で利用され、分析結果がどのように活用されるのかを学ぶことを主目的としており、高校数学の知識を前提としない学びやすい内容になっています。 なお、この科目は共通科目に位置付けられていますが、ここで学んだ内容を各学部の専門分野に活かすことで、さらなる学びにつなげてください。 【キーワード】 第4次産業革命，Society 5.0，数理，データサイエンス，AI（人工知能），IoT，ビッグデータ，データの利活用，実データ（政府統計，企業統計），個人情報，データ倫理 【到達目標について】 データサイエンスの全体像を把握するうえで必要となる知識と技術の修得；具体的には以下を到達目標とします。 ・現代社会におけるデータサイエンスやA I の現状や役割について理解し，説明することができる ・データサイエンスやA I を利活用する際の留意事項（個人情報、データ倫理など）について理解し，説明することができる ・目的に沿って必要なデータを集め，適切に加工して分析し，グラフや図解を駆使して自分の考えを表現することができる			
授業の概要			
アクティブラーニング手法を取り入れた実践的・参加型授業を実施して，総合的な知識の獲得とともに，思考力と問題解決能力の向上を図ります。			

【講義】実社会の事例やデータを題材として参加型授業を実施

【演習】個人ワークとグループワークを組み合わせた演習を実施

授業計画

第1回 オリエンテーション： ・授業の目的と到達点・受講のルールと成績評価

・Society5.0 データサイエンスとは

第2回 社会におけるデータ・AI活用①

・AIと社会の結びつきと活用領域・AI技術活用事例

第3回 社会におけるデータ・AI活用②

・言語処理、動画処理、音楽処理の比構造化データ、構造化データ

データ・AI活用留意事項 個人情報保護 ・AI技術が引き起こす社会の課題

第4回 データリテラシー①様々な数式と基本関数様々な数式と基本関数

第5回 データリテラシー②応用関数とデータベース

第6回 データリテラシー③グラフ表現と分析

第7回 データリテラシー④統計のプロセスを知る

第8回 データリテラシー⑤データ収集実習

第9回 データリテラシー⑥・統計データベースの活用

第10回 データリテラシー⑦・天気と売り上げの関係から効果的な販売、仕入れ計画を立てる

第11回 データリテラシー⑧・人口統計を活用して都市計画を考える 準備（グループワーク）

第12回 データリテラシー⑨・人口統計を活用して都市計画を考える 実施（グループワーク）

第13回 統計のまとめと最終課題準備・最終統計課題の準備（グループワーク）

第14回 最終課題（農作物統計）・最終統計課題の実施（グループワーク）

第15回 データリテラシー⑩・分析して分かった内容をレポートにまとめる

最終課題のまとめ

テキスト

「はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス」（noa出版、2022年1月発刊）

参考書・参考資料等

学生に対する評価

平常点評価：70%（個人課題やグループ課題の成果，レポートの内容，授業への参加度等を元に総合的に判断する。詳細は授業中に随時説明する。）

最終課題：30%（最終課題の内容）

【課題に対するフィードバックについて】

課題に対するフィードバックは，講義中での解説，あるいはKVCへの掲載で対応する。

授業科目名： データ分析と活用	教員の免許状取得のための 必修科目／ 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 北村 慎也
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
データ活用の理論的な基礎を抑えつつ、実践的なケースについて学ぶことにより、社会で活用されるデータの在り方を習得する。			
授業の概要			
データ活用の基本的な理論とケースを学ぶ基礎と、実際にデータを用いた実践的な分析を行う			
授業計画			
第1回：イントロダクション、授業の計画			
第2回：データ活用概論①データが使われる社会的な場面（基礎）			
第3回：データ活用概論①データが使われる社会的な場面（実践）			
第4回： データ活用概論②データが使われるビジネス的な場面（基礎）			
第5回： データ活用概論②データが使われるビジネス的な場面（実践）			
第6回： データ活用事例解説①ビッグデータを用いた政策立案（基礎）			
第7回： データ活用事例解説①ビッグデータを用いた政策立案（実践）			
第8回： データ活用事例解説②ビッグデータをビジネスに使う（基礎）			
第9回： データ活用事例解説②ビッグデータをビジネスに使う（実践）			
第10回：データの取り扱い基礎①四則演算のみで扱うデータ分析（基礎）			
第11回：データの取り扱い基礎①四則演算のみで扱うデータ分析（実践）			
第12回：データの取り扱い基礎②記述統計（基礎）			
第13回：データの取り扱い基礎②記述統計（実践）			
第14回：データの取り扱い基礎③：問読法、問解法（基礎）			
第15回：データの取り扱い基礎③：問読法、問解法（実践）			
定期試験			
テキスト			
統計学が最強の学問であるシリーズ（西内啓著，ダイヤモンド社）			
参考書・参考資料等			
授業中に適宜参考資料を配布する。			
学生に対する評価			
定期試験（50％）、実践講義時のレポート（50％）			

授業科目名： 学校と教育の歴史		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高 津 芳 則
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分		教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ 日々の新聞が報道する教育問題を、歴史的かつ構造的に考える力を養う				
授業の概要 資本主義社会は、モラルを身につけた個人を前提にしている（アダム・スミス）。 資本主義社会における教育の役割を、封建社会との関係で考察する。				
授業計画 第1回：ガイダンス 受講にあたっての諸注意（教育を歴史的に考える意味） 第2回：教育・学校と歴史観1（『昭和史』論争と歴史観） 第3回：教育・学校と歴史観2（脱亜論の歴史観） 第4回：教育・学校と歴史観3（唯物史観と学校） 第5回：日本における学校の誕生1（幕末から明治維新） 第6回：日本における学校の誕生2（『学問のすすめ』と学制） 第7回：日本における学校の誕生3（教学聖旨・教育議論争） 第8回：教育勅語 第9回：森文政期における学校体系 第10回：学校行事と国旗・国歌 第11回：学習指導要領における国旗・国歌 第12回：国旗・国歌と学校をめぐる諸問題 第13回：国定教科書制度の歴史 第14回：国家による教育統制と戦争 第15回：戦争責任と教育問題				
テキスト 佐藤広美他『21世紀の教育をひらくー日本近現代教育史に学ぶ』緑陰書房2003年				
参考書・参考資料等 授業中適宜指示する。				
学生に対する評価 レポートによる				

授業科目名： 教育学入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 樋口太郎
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目等		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
①「教育とは何か」という問いについて、授業内容を踏まえつつ、自身の考えを形成すること。			
②「学校で何を学ぶのか」という問いについて、授業内容を踏まえつつ、自身の考えを形成すること。			
授業の概要			
前半は、「教育とは何か？」という問いを持ちながら、教育を対象化して捉えることを目指す。後半は、「学校で何を学ぶのか？」という問いのもと、戦後教育史の全体像をつかむ作業をおこなう。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：教育実践の事例をもとに教育について考える①——小学校			
第3回：教育実践の事例をもとに教育について考える②——中学校・高等学校			
第4回：教育という言葉はどのように使われてきたのか——〈教育〉の語源学			
第5回：教育を行う場としての学校はどのように成立したのか①——教育の考古学（西洋編）			
第6回：教育を行う場としての学校はどのように成立したのか②——教育の考古学（日本編）			
第7回：教育はどのような営みとして捉えられてきたのか——教育の目的論の変遷			
第8回：戦後教育史を読む（導入）			
第9回：戦後教育史を読む①——1950年代まで			
第10回：戦後教育史を読む②——1970年代まで			
第11回：戦後教育史を読む③——1990年代まで			
第12回：戦後教育史を読む④——人間形成の全体像			
第13回：戦後教育史を読む⑤——教育に関わる時期区分論			
第14回：戦後教育史を読む⑥——2008・2017年版学習指導要領			
第15回：教育学入門の総括			
定期試験			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			

授業中に適宜資料を配布する。

参考文献は以下の通り。

木村元『学校の戦後史』岩波新書、2015年。

小針誠『アクティブラーニング』講談社現代新書、2018年。

中村高康『暴走する能力主義』ちくま新書、2018年。

広田照幸『日本人のしつけは衰退したか』講談社現代新書、1999年。

本田由紀『教育は何を評価してきたのか』岩波新書、2020年。

松岡亮二『教育格差』ちくま新書、2019年。

学生に対する評価

定期試験（論述問題。持ち込み不可）の点数による。

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中西 修一郎 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
・ 公教育の担い手としての教員の特徴と社会的意義、およびそのために求められる職務内容や サービス上・身分上の義務を把握する ・ 内外の専門家との連携・分担など、教職に求められるものを履行するために求められる資質 ・ 能力を理解する			
授業の概要			
この授業では、生徒としての参加してきたこれまでの学校経験を、教師という視点から見つめ直し、教師という職業の特性や必要な資質・能力、社会的意義や課題を把握してもらう。そのため、この授業には大きく3つの内容が含まれる。第1に「教職に関する基本的理解」である。教職の歴史や関係法規、労働のあり方など、教師という職業をめぐる基本的な知識や概念に関して知り、考えてもらう。第2に「教職の資質・能力」である。学習指導、生活指導、教育課程などの観点から、歴史的に蓄積された典型的な実践を読み考える中で、自らの経験を拡大してもらう。第3に、「教職に関する探究」である。教師という職業について、自分自身で考えていくため素地を養ってもらう。			
授業計画			
第1回：教師とは何か？（教師像の共有、概論的なテーマの提示）			
第2回：教職に関する基本的理解①：教育の歴史と現在（教育改革運動、現在の教育改革の方向性）			
第3回：教職に関する基本的理解②：公教育の担い手（公教育とは何か、義務教育、学力保障）			
第4回：教職の資質・能力（学習指導）①：教材の研究者としての教師（教材研究、PCK）			
第5回：教職の資質・能力（学習指導）②：生徒の評価者としての教師（教育評価の意義）			
第6回：教職の資質・能力（学習指導）③：学習集団の指導（専門職としての教職像）			
第7回：教職に関する基本的理解③：教職の職業的特徴のサービス上・身分上の義務及び身分保障（地方公務員法、政治的中立性、サービス上・身分上の義務及び身分保障）			
第8回：教職に関する基本的理解④：仕事としての教師（教職の雇用、労務問題等）			
第9回：教職の資質・能力（生活指導）①：学級づくりにおける教師の役割			
第10回：教職の資質・能力（生活指導）②：生活の指導における教師の役割			
第11回：教職の資質・能力（教育課程）①：学校における「体験」の指導			
第12回：教職の資質・能力（教育課程）②：カリキュラムのマネジメント主体（チーム学校、教師の同僚性）			
第13回：教職の資質・能力（教育課程）③：総合学習における教員と生徒の関係性（探究者とし			

ての教師、探究の指導者としての教師、キャリア教育)

第14回：教職に関する探究（教職に関わるテーマを自分で設定し、調査したことをもとに意見交換を行う。学び続ける教師像）

第15回：教師とは何か？（これまでの講義を踏まえ、教職についての理解がいかに深まり、まだ何を知らないかを確認する。）

テキスト

授業内で適宜配布する。

参考書・参考資料等

秋田喜代美・佐藤学（編著）『新しい時代の教職入門』有斐閣アルマ

田中耕治（編著）『時代を拓いた教師たち』日本標準

田中耕治（編著）『時代を拓いた教師たちⅡ』日本標準

田中耕治編著『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

学期末レポート：55%

一枚ポートフォリオ（15の小課題）：45%

授業科目名： 教育行政学		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高 津 芳 則
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び 学校安全への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 教育の諸問題を、各自の受けてきた教育の経験にもとづいて考察するの ではなく、教育法を学ぶことにより、多角的視点から考えられるようにすることを目標とする。				
授業の概要 憲法上、教育は国民の人権の一つであるとされている。しかし、子どもたちは人権の主 体になり得ていない現実がある。それはどうしてなのか、学生とともに考える授業にする。				
授業計画				
第1回：ガイダンス（「法と教育」の概説）				
第2回：勅令主義教育体制				
第3回：憲法と旧教育基本法1（憲法の成立）				
第4回：憲法と旧教育基本法2（旧教育基本法の成立）				
第5回：世界の冷戦体制と教育				
第6回：安保条約と教育				
第7回：学力テスト問題と教育				
第8回：中教審46答申と競争の教育				
第9回：新自由主義と教育改革（学校運営協議会制度を中心に）				
第10回：教育基本法改正1（教育改革国民会議から中教審答申へ）				
第11回：教育基本法改正2（現行教育基本法の成立）				
第12回：教科書検定と家永教科書裁判				
第13回：家永教科書裁判と司法判断				
第14回：東京都・大阪府の教育改革				
第15回：子どもの権利と学校安全				
テキスト 勝野・藤本編『教育行政学（改定新版）』学文社2015年				
参考書・参考資料等 『教育小六法』学陽社				
学生に対する評価				
レポートによる				

授業科目名： 教育心理学概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 久 保 りつ子
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業の到達目標及びテーマ				
(1) 発達および教育に関する基礎的知識を身に付ける。				
(2) それらの発達・教育に関する心理学の知見と実際の教育問題との関わりを理解し、その知見を応用した教育実践の方法について考えることができるようになる。				
授業の概要				
教育心理学とは、心理学的な立場から教育の問題について検討し、教育活動をより良く行うための知見や方法を提供する学問である。本授業ではまず教育の対象となる乳幼児期から青年期の発達の特徴を学び、学習や記憶のしくみ、学習意欲や動機づけなどの心理過程を考える。さらに、発達障害の特徴とその支援、教師による学級経営、学習指導、生活指導、評価についても学ぶ。受講する学生がこれまで受けてきた教育に関してディスカッションし、他者の意見と自分の意見を取りまとめ、教育実践での心理学的視点について学習する。				
授業計画				
第1回：オリエンテーション：教育心理学とは何か				
第2回：発達理論と教育				
第3回：発達と課題①：乳幼児期				
第4回：発達と課題②：学童期				
第5回：発達と課題③：思春期・青年期				
第6回：学習と記憶				
第7回：学習意欲と動機づけ				
第8回：発達障害①：自閉症スペクトラム障害				
第9回：発達障害②：注意欠如・多動性障害、学習障害				
第10回：学校・学級集団				
第11回：学習指導と教育評価				
第12回：教育現場の問題①：学力について				
第13回：教育現場の問題②：対人関係について				
第14回：チーム学校				

第15回：まとめ：教育心理学と教育実践の関わり

定期試験

テキスト

授業ごとに資料を配布する。参考文献はテーマごとに適宜紹介する。

参考書・参考資料等

「改訂版・実践につながる教育心理学」櫻井茂男監修 黒田祐二編著 北樹出版

「ベーシック現代心理学6 教育心理学[第3版]」子安増生 田中俊也 南風原朝和 伊東裕司著 有斐閣

学生に対する評価

授業参加態度30%、授業内課題20%、試験50%

授業科目名： 子どもの臨床心理学		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名： 堀内 瞳	
						担当形態： 単独	
科 目		教育の基礎的理解に関する科目					
施行規則に定める 科目区分		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
授業の到達目標及びテーマ 子どもの臨床心理学の基礎的な知識の習得と、人のこころ、及び自分自身のこころの理解を深めることを目指します。							
授業の概要 子どもは日々発達しており、様々な変化の中で生きています。 本講義では、子どもと親や家族との関係性というものが子どもにとってどのような意味を持つのかを考えていきます。そして、様々な領域での子どもの臨床と心理療法について学んでいきます。							
授業計画 第1回：イントロダクション・子どもの臨床心理学概要 第2回：家族（環境）について 第3回：子どもの発達 第4回：子どもの心の発達 第5回：学校現場における子どもの臨床①SC、学校臨床 第6回：学校現場における子どもの臨床②いじめ、不登校、発達障害 第7回：福祉領域における子どもの臨床①福祉の仕事 第8回：福祉領域における子どもの臨床②社会的養護、虐待・児童養護施設 第9回：医療現場における子どもの臨床①医療現場、心身症 第10回：医療現場における子どもの臨床②摂食障害、強迫性障害など 第11回：子どもの心理療法：心理療法とは 第12回：子どもの心理療法：プレイセラピー 第13回：子どもの心理療法：言語面接 第14回：親面接 第15回：子どもの臨床心理学の総括 定期試験							
テキスト 毎回講義資料を配布します。							
参考書・参考資料等 「子どものこころの発達を支えるもの アタッチメントと神経科学、そして精神分析の出会いとところ」 鵜飼奈津子監訳 誠信書房							
学生に対する評価							

授業への参加状況・授業態度(ミニレポート含む)40%、試験60%で総合的に評価します。

授業科目名： 特別支援教育概論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石 原 幸 一
				担当形態： 単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業の到達目標及びテーマ				
障害をもつ児童生徒の理解と特別支援教育の理念、システム、アセスメントと支援方法について理解できる。学校での具体的な場面を想定した支援や指導についての基礎的な力量を培う。				
授業の概要				
視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱などの障がいや通常の学級にも在籍している発達障害などの様々な障害等、特別な教育的ニーズを持つ児童・生徒の理解と必要な支援及び支援方法について知り、校内の組織的な協力体制の下で個別の指導計画に基づいた個に応じた支援について理解する。また、障害者が置かれている現状について調べ、真の平等と共生社会について考える。講義での学びをふまえて教師になった立場で「障害理解教育」の構想をグループごとに発表する。				
授業計画				
第1回： 特別支援教育の理念				
第2回： 特別支援教育の仕組み				
第3回： 特別支援教育の対象				
第4回： 発達障害の子どもの理解				
第5回： 発達障害のある子どもに対する支援				
第6回： 知的障害のある子どもの理解				
第7回： 個別の指導計画と個別の教育支援計画				
第8回： 通級による指導				
第9回： 障害理解の推進について				
第10回： 特別支援学級の教育と対応				
第11回： 特別支援学校の教育と対応				
第12回： 家庭との連携				
第13回： 福祉との連携				
第14回： 障害のある子どもの教育の歩み				
第15回： 特別な教育的ニーズ				
定期試験 あり				
テキスト				

相澤雅文ほか『テキスト 特別支援教育』クリエイツかもがわ ほかプリント
参考書・参考資料等 特別支援学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）、全国特別支援学級設置学校長協会 『「特別支援学級」と「通級による指導」ハンドブック』東洋館出版社、大塚玲『教員をめざすための特別支援教育入門』萌文書林、花熊暁・米田和子『通常の学級で行う特別支援教育 中学校 ユニバーサルデザインと合理的配慮でつくる授業と支援』明治図書ほか
学生に対する評価 平常点50%（授業態度、振り返り文、ミニレポート、小テスト） 定期テスト50%

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中西 修一朗
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
・学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義について、教育課程編成の基本原理および学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を含めて説明できるようになる。 ・教科・領域・学年をまたいで学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を具体的に説明できるようになる。			
授業の概要			
学校教育において何をいつどのように教え、学ぶのか。こうした問いに関わるのが教育課程(カリキュラム)である。本授業では、教育課程に関する基本的な概念や編成原理を理解したうえで、日本における教育課程の歴史的変遷や、教育課程編成と授業づくりの方法についての具体的な取り組みを検討していく。			
授業計画			
第1回：学校経験と教育課程（自らの学校経験を教育課程の領域ごとに分類することを通じて、教育課程の概要を把握する。）			
第2回：教育課程とは何か①教育課程の定義・教育課程が社会で果たしている役割（教育課程の定義、教育課程の意図性・無意図性：ヒドゥン・カリキュラム）			
第3回：教育課程編成の基本原則①経験主義の原理と実践（デューイのactive occupation、きのくに子どもの村学園）			
第4回：教育課程編成の基本原則②系統主義の原理と実践（ブルーナーの「らせん型カリキュラム」、水道方式・キミ子方式）			
第5回：教育課程の歴史①戦前期（学校教育の構想：知育と徳育、教科と科目：習得主義と履修主義）			
第6回：教育課程の歴史②戦中～戦後初期（カリキュラムの類型、スコープとシーケンス、経験主義のカリキュラム構成の具体像）			
第7回：教育課程の歴史③戦後～現在（社会の変化と学習指導要領の変遷、学習指導要領の性質の変化、コンテンツ・スタンダードとパフォーマンス・スタンダード）			
第8回：カリキュラム評価①教育評価でふりかえる教育課程の歴史（絶対評価・相対評価・個人内評価・目標準拠評価、信頼性と妥当性、指導要録、学力とは何か）			
第9回：カリキュラム評価②学力目標をみすえた教育課程の編成と評価（パフォーマンス評価、長期的ルーブリック、スタンダードの種類）			

第10回：教科外の教育課程①特別活動の教育課程（学級活動の教育課程上の位置づけ、学習指導と生活指導）

第11回：教科外の教育課程②総合学習とは何か（教科領域と教科外領域の横断）

第12回：教科外の教育課程③総合学習は必要か——教科・領域を横断する教育課程編成（総合学習の歴史、合科と総合、教科と総合のちがい）

第13回：カリキュラム・マネジメント——長期的視野および学校の実態に根差した教育課程編成（カリキュラム・マネジメントとは何か、〈内容の連関性〉と〈教員の協働性〉、カリキュラム・マネジメントの方法論）

第14回：教育課程の探究（自主課題を設定、探究し、意見交換を行う）

第15回：教育課程とは何か②（教育課程とは何かを考え直す、学力と教育課程との関係）

テキスト

授業中に適宜配布する。

参考書・参考資料等

田中耕治他『新しい時代の教育課程』有斐閣

田中耕治編著『よくわかる教育課程 第二版』ミネルヴァ書房

田中耕治編著『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房

文部科学省『小学校 学習指導要領（平成29年告示）』

文部科学省『中学校 学習指導要領（平成29年告示）』

文部科学省『高等学校 学習指導要領（平成30年告示）』

学生に対する評価

学期末レポート：55%

一枚ポートフォリオ（15の小課題）：45%

授業科目名：特別活動および総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森本和寿 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法・特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
特別活動・総合学習の教育課程における歴史や役割を理解するとともに、実践事例の検討を通して、特別活動・総合学習の指導案を構想し、見通しをもって指導にあたる実践的力量を培う。			
授業の概要			
特別活動および総合学習の意義や歴史、指導法について、先行実践を読み深めながら探究していく。先行事例をグループごとに読み深めることを基礎とする。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：特別活動と総合的な学習の時間で育てたい資質・能力			
第2回：特別活動の概要：特別活動の目標と内容			
第3回：教育課程・学習指導要領における特別活動の位置づけ：戦前・戦中・戦後初期			
第4回：教育課程・学習指導要領における特別活動の位置づけ：戦後から現在に至るまで			
第5回：学級活動・ホームルーム活動の具体的実践：生活綴方に学ぶ家庭や地域とのかかわり			
第6回：学級活動・ホームルーム活動の具体的実践：「仲間づくり」に学ぶ意思決定			
第7回：学級活動・ホームルーム活動の具体的実践：「集団づくり」に学ぶ合意形成			
第8回：クラブ活動の具体的実践：「学級文化活動」実践に学ぶ評価・改善活動			
第9回：児童会・生徒会活動の具体的実践：学級会と児童会・生徒会の結びつき			
第10回：学校行事の具体的実践：各種学校行事実践に学ぶ			
第11回：教育課程・学習指導要領における「総合的な学習の時間」の位置づけ			
第12回：総合的な学習の時間の具体的実践：各教科と結びつけて地域の課題に取り組む			
第13回：総合的な学習の時間の具体的実践：探究活動の意義と評価			
第14回：特別活動と総合学習：両者の共通性と独自性を活かしたカリキュラム・マネジメント			
第15回：特別活動と総合学習の年間指導計画・単元計画の作成			
定期試験			
テキスト			
・吉田武男・京免徹雄編『特別活動』ミネルヴァ書房			

参考書・参考資料等

- ・ 小学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）
- ・ 中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）
- ・ 高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）
- ・ 生徒指導提要（文部科学省）

授業内でレジュメを配布し、授業内容や受講生の授業コメントを踏まえながら、適宜参照すべき文献を示す。

学生に対する評価

- ・ 授業コメント 50点：授業内容の理解について問うコメントを求める
- ・ 中間試験 30点：基礎的な知識事項について問う
- ・ 最終課題 20点：特別活動と総合学習に関するレポートを課す

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 樋口太郎
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
①授業をつくる、カリキュラムをつくるための教師としての力量を培うこと。 ②教育方法学の理論について理解し、教師としての専門性を高めていくための基礎を培うこと。 ③学習指導案作成の力量をさらに高めること。			
授業の概要			
教育方法に関わる思想と歴史についてふれたあと、教育方法の理論と実践についてできるだけ具体例を踏まえながら扱っていく。また、学習指導案に関する学習もおこなう。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：学習指導案の理論と方法			
第3回：授業とは何か　＋序章　今なぜ、教育方法の学なのか			
第4回：第1章　西洋における教育思想と教育方法の歴史			
第5回：第2章　日本における教育改革と教育方法の歴史			
第6回：第3章　現代教育方法学の論点と課題			
第7回：第4章　子どもは何を学ぶか			
第8回：第5章　学習とは何か			
第9回：第6章　学力をどう高めるか			
第10回：第7章　授業をどうデザインするか			
第11回：第8章　教育の道具・素材・環境を考える			
第12回：第9章　何をどう評価するのか			
第13回：第10章　教科外教育活動を構想する			
第14回：第11章　どのような教師をめざすべきか			
第15回：教育方法をめぐる最新の動向（ICT化、グローバル化と教育方法の関係など）			
定期試験			
テキスト			
田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法（改訂版）』有斐閣、2019年。			
参考書・参考資料等			

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（文部科学省：最新版）

学生に対する評価

定期試験（論述試験。持ち込み不可）と、提出を求める学習指導案の出来によって評価する。

授業科目名： 教育におけるICT活用	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 樋口 太 郎 中 西 修一朗 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	情報通信技術を活用した教育に関する理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
・学習指導において情報通信技術が占める役割や意義、注意すべき点などを具体的に把握して活用できるようになる。またその際に留意すべき情報活用能力について、説明できるようになる。 ・情報通信技術を用いるための環境整備や、これを用いた校務の推進について把握し、説明できるようになる。			
授業の概要			
主体的・対話的で深い学びを実現するためのツールとして、情報通信技術(ICT)が注目を集めている。GIGAスクール構想等に後押しされ、PCやタブレット端末の整備を進め効果的に活用する学校も増加している。これらの教具の有用性と課題を把握することは、今後の学校のあり方を考える一助となるだろう。本講義では、情報通信技術の学習指導や校務改善への活用事例を検討することを通じて、今後の教育において情報通信技術が担うべき位置や、その際の環境整備の条件、児童生徒が身につけるべき情報活用能力などについて広く学習してもらう。			
授業計画			
第1回： 深い学びと I C T活用（担当：樋口太郎）			
第2回： I C Tを活用した授業改善 （担当：樋口太郎）			
第3回： 特別なニーズと I C T / 求められる情報活用能力と情報モラル（担当：樋口太郎）			
第4回： 校務の円滑化と I C T（担当：樋口太郎）			
第5回： I C T活用をめぐる環境整備（担当：中西修一朗）			
第6回： I C Tを活用した指導法の探究（担当：中西修一朗）			
第7回： I C Tを活用した指導法の実践（担当：中西修一朗）			
第8回： 現代の教育とICT（担当：中西修一朗）			
テキスト			
授業中に適宜配布する。			
参考書・参考資料等			
上越教育大学附属中学校編著『G I G Aスクール時代の学校』東京書籍、2021年			
文部科学省『小学校 学習指導要領（平成29年告示）』			
文部科学省『中学校 学習指導要領（平成29年告示）』			

文部科学省『高等学校 学習指導要領（平成30年告示）』

学生に対する評価

授業内容をふまえた最終提出物によって評価する。

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤 雄一郎
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
学校教育における生徒指導および進路指導の位置づけを理解し、教育活動全体を通じた指導の視点と方法を理解する。児童生徒が抱える生徒指導・進路指導上の課題について理解するとともに、校内外の連携も含めた対応のあり方を理解する。			
授業の概要			
今日の児童および生徒の抱える生徒指導・進路指導上の課題に対して、文部科学省が発行している資料や生活指導実践の検討を通して、子ども理解にもとづく生徒指導・進路指導のあり方を理解する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
授業概要の説明を行う。自分の受けてきた生徒指導および進路指導の経験を振り返り、本科目受講への課題意識を持つ。			
第2回：教育課程における生徒指導の位置づけ			
教育課程における生徒指導の位置づけ、生徒指導の三機能について学ぶ。			
第3回：生活指導をととした人格形成			
生活指導の概念、その源流、生活指導と人格形成の関係について学ぶ。			
第4回：子ども理解の視点と方法			
子ども理解における言葉、身体、生活・環境という三つの視点と方法について学ぶ。			
第5回：子どもの発達と特別な教育ニーズ			
発達段階論、発達障害の種類と特性、特別な教育ニーズへの対応について学ぶ。			
第6回：いじめ・暴力のなかにある子どもたち			
暴力行為およびいじめの実態、いじめ発生のメカニズム、いじめの予防・対応について学ぶ。			
第7回：学校に通えない／通わない子どもたち			
不登校の実態、不登校への理解、不登校支援の方法について学ぶ。			
第8回：学級集団づくりの方法			
学級集団づくりの方法（班づくり、リーダー／フォロワー指導、話し合いの指導）について学ぶ。			
第9回：自治活動の指導			

生徒指導と特別活動との関連、学校行事、生徒会活動、授業をととした自治の指導方法について学ぶ。

第10回：家庭・関係機関・教職員との連携

保護者との関係づくり、医療・福祉機関等や教職員との連携について学ぶ。

第11回：教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ

教育課程における進路指導・キャリア教育の位置づけ、ガイダンスとしての指導、カウンセリングとしての指導、ポートフォリオの活用方法について学ぶ。

第12回：地域と連携したはたらく体験の組織

職場体験や総合的な学習の時間での学習など、地域と連携したはたらく体験の組織について学ぶ。

第13回：キャリア教育の視点に立った授業実践の検討

「はたらくこと」をテーマとした授業実践を検討し、キャリア教育の視点に立った授業について学ぶ。

第14回：子どもに応じた進路指導

進路指導の実践事例を検討することとおして、子どもの個性や適性を把握する視点、子どもに応じた進路指導の方法について学ぶ。

第15回：生徒指導・進路指導をととした社会的・職業的自立

社会的自立とは何か、職業的自立とは何か、現代の日本社会で生きていくためにどのような指導が求められているかについて学ぶ。

定期試験は実施しない。

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

文部科学省『生徒指導提要』教育図書 2011年

文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』東洋館出版 2019年

山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志『新しい時代の生活指導』有斐閣 2014年

学生に対する評価

授業における課題提出（30%）、レポートまたは期末試験（70%）

授業科目名： 教育相談の理論と方法		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 坪 田 祐 季
				担当形態： 単独
科 目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分		教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ				
テーマ： 学校で実践されている教育相談やカウンセリングの理論と具体的な実践方法を学ぶ				
到達目標： ・ 学校カウンセリングや教育相談について、理論的・体験的に理解を深める ・ 児童生徒が抱える課題について多面的な視点から理解し、対応の仕方を考える力を高める ・ 保護者への対応の仕方、教職員同士や多職種との連携の必要性について理解を深める ・ 教育相談の具体的なアプローチを学び、実践に活かす力を身につける				
授業の概要 学校という場で出会う子どもたちを、教師としてどのように理解し、どのようにサポートするのか、そして、どのように成長を育んでいくのか、体験を通して学ぶ。				
授業計画				
第1回：学校教育における教育相談				
第2回：現代の子どもの現状と課題 ー心理学的視点から				
第3回：学校における援助体制 ースクールカウンセラーと教師の役割				
第4回：カウンセリングスキル（傾聴）演習				
第5回：発達障害をもつ児童・生徒への援助				
第6回：特別支援教育の実際				
第7回：学校におけるいじめの理解と対応				
第8回：学校におけるいじめの未然予防				
第9回：学校における虐待問題の理解と対応				
第10回：不登校の理解と支援の実際				
第11回：思春期に生じる心理的問題と精神疾患				
第12回：保護者と教師のメンタルヘルス				
第13回：学級集団への教育相談的援助				
第14回：自殺と自殺予防教育				
第15回：チーム学校と多職種連携				
定期試験				

テキスト

必要に応じて、適宜配布する。

参考書・参考資料等

公認心理師の基礎と実践18巻 教育・学校心理学 石隈利紀編 遠見書房

ワークで学ぶ学校カウンセリング 竹尾和子 井藤元編 ナカニシヤ出版

体験型ワークで学ぶ教育相談 小野田正利 藤川信夫監修 大前玲子編 大阪大学出版会

その他、必要に応じて適宜紹介します。

学生に対する評価

期末試験50%、振り返りレポート40%、平常点10%で総合的に評価する。

授業のはじめに前回の課題や振り返りレポートについてフィードバックを行う。

シラバス:教職実践演習

シラバス:教職実践演習(中・高)		単位数:2単位		担当教員名:高津芳則・藤澤宏樹・樋口太郎・中西修一郎	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	
受講者数 20人(4クラスで実施)					
教員の連携・協力体制					
教職に関する科目の担当教員を中心にしながら、教職経験者の支援も受けつつ、進める。教科に関する科目の担当教員には、授業計画の作成にあたって協力を求めるとともに、模擬授業の教材研究において支援してもらう。					
授業のテーマ及び到達目標					
・教育を受ける側、そして教育を行う側に立った経験を振り返ることができるようになる。 ・教員としての資質・能力が一定程度形成されたことを、4観点を通して確認することができるようになる。					
授業の概要					
第1回から第4回で、教育を受ける側、そして教育を行う側における自身の経験を振り返り、教職全般について特に4観点を通じた理解・考察を深める。その上で、第5回から第7回では、ICTの活用も踏まえながら授業設計の力量のさらなる向上を図る。第8回から第10回では、模擬授業(ICTを活用するものも含む)を通して、授業を実際におこなう力量のさらなる向上、授業を見る力の育成を目指す。これらは、教師にとって最も重要な仕事である授業に関わるものである。さらに、第11回から第14回では、授業場面以外における教師にとっての仕事、いじめ・不登校、学級運営、進路指導、家庭・地域との連携などのテーマについてロールプレイを交えながら議論し、理解を深める。					
授業計画					
第1回目 演習の概要や計画、成績評価基準の説明、演習の目的の解説					
第2回目 教職経験者による講演(教師という仕事全般について)					
第3回目 教員としての使命感や責任感、ならびに教員としての社会性や対人関係能力に関するグループ討議					
第4回目 生徒理解、学級経営、ならびに教科等の指導力に関するグループ討議					
第5回目 授業設計①——教職経験者による講演(授業づくりについて)					
第6回目 授業設計②——指導案の検討とグループ討議					
第7回目 授業設計③——ICTを活用した教材づくり・授業づくりに関するグループ討議					
第8回目 模擬授業①——特に授業内容に焦点をあてた検討					
第9回目 模擬授業②——特に授業方法に焦点をあてた検討					
第10回目 模擬授業③——総合的な観点からの検討					
第11回目 ロールプレイ①——いじめ・不登校					
第12回目 ロールプレイ②——学級経営					
第13回目 ロールプレイ③——進路指導					
第14回目 ロールプレイ④——家庭・地域との連携					
第15回目 最終レポートの発表と議論					

授業評価アンケートの分析
テキスト なし
参考書・参考資料等 西岡加名恵ほか『教職実践演習ワークブック』ミネルヴァ書房、2013年。 高見茂ほか監修・石井英真ほか著『教育実習・教職実践演習・フィールドワーク』協同出版、2018年。
学生に対する評価 模擬授業・ロールプレイの内容(40%)、最終レポート(40%)、授業における議論への参加度(20%)

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。